

平成 25 年度 群馬県立館林美術館年報

2013.4 - 2014.3



Gunma Museum of Art,  
Tatebayashi

群馬県立館林美術館

## 目次

---

### ・展覧会 p.3

A 展覧会一覧	p.3
B 企画展示記録	p.4
C コレクション展示記録	p.35
D 彫刻家のアトリエ(別館)展示記録	p.40
E 入館者数一覧表	p.41

### ・教育普及 p.42

A 講演会・アーティストトーク・パフォーマンス	p.42
B 作品解説会・ギャラリートーク・ポンポン・ツアー	p.43
C ワークショップ	p.45
D 創作体験コーナー みんなのアトリエ	p.46
E たてび☆びじゅつ部	p.47
F たてび土曜レクチャー	p.47
G コンサート	p.47
H 他団体への協力	p.48
I 学校連携その他	p.49
J 地域に開かれた美術館づくり	p.52
K 刊行物	p.54
L ボランティア	p.55
M 友の会	p.55

### ・所蔵資料 p.56

A 美術作品	p.56
B 図書資料その他	p.61

### ・関係者および職員名簿 p.62

---

## 展覧会

### A 展覧会一覧

#### (1)企画展示

展示名	会期、会場	内容
鹿島茂コレクション パルビエ×ラブ ルール展 -アール・デコのモダンなイ ラストレーション	4/27～6/30 展示室2～4	フランス文学者の鹿島茂氏愛蔵のコレクションより、20世紀前半のフランスでアール・デコのモダンなイラストレーションにより人気を博した2人のイラストレーター、ジョルジュ・バルビエとジャン＝エミール・ラブルールを紹介した。
籾内佐斗司展「やまとぢから」	7/20～9/23 展示室1～4	彫刻家・籾内佐斗司は1979年の初個展以来、木彫作品を中心に多彩な表現活動を続けてきた。本展では、初期の作品に始まり、近年の仏像の保存修復の成果、「せんとくん」や平成伎楽団まで、30年以上におよぶ活動を総合的に紹介し、作家が追求してきた日本人のころをみつめなおした。
山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描き から現在まで	10/12～1/13 展示室2～4	幼少期から高校卒業までを群馬で過ごした山口晃の地元での初めての回顧展。絵画や立体作品の代表作を中心に、子ども時代のお絵描きや、県内に所蔵される初期作品、群馬に関連する新作など貴重な初出品作品を加え、山口晃の魅力に迫った。
シャガール 版画の世界	2/1～4/6 展示室2～4	故郷のヴァイテプスクや青年時代を過ごしたパリの風景を織り混ぜ、詩情豊かな絵を描き続けたシャガールの、モノクロームによる《死せる魂》から色彩豊かな《ダフニスとクロエ》まで、多様な魅力を湛えた版画作品を紹介した。

#### (2)コレクション展示

展示名	会期、会場	内容
近現代の彫刻Ⅰ	4/27～6/30 展示室1	ヘンリー・ムーア、パーパラ・ヘップワースなど、近現代の彫刻を展示。
近現代の彫刻Ⅱ・木版画	7/20～9/23 展示室4	フランソワ・ボンポンの彫刻作品、藤牧義夫、清宮質文、柄澤齊の木版画作品を展示。
近現代の彫刻Ⅲ	10/12～1/13 展示室1	チャーナ・オルロフ、ジム・ダインなどの近現代の彫刻を展示。
近現代の彫刻Ⅳ	2/1～4/6 展示室1	ヘンリー・ムーアや岡本健彦、和南城孝志など、近現代の彫刻を展示。

## 1. 鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展— アール・デコのモダンなイラストレーション

会期 平成25年4月27日(土)～6月30日(日)  
 会場 展示室2、3、4  
 主催 群馬県立館林美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
 後援 フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本  
 協賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網  
 協力 練馬区立美術館、ノエマ、群馬日仏協会、プリオコーポレーション  
 観覧料 一般 600 (480) 円、大高生 300 (240) 円  
 ( )内は、20名以上の団体割引料金

フランス文学者の鹿島茂氏は、フランスの文学や歴史、また日仏の文化に関する幅広い執筆活動のみならず、約5万冊という膨大な数の西洋古書・版画を所蔵するコレクターとしても知られている。本展は、鹿島氏愛蔵のコレクションより、20世紀初頭のフランスで活躍した2人のイラストレーター、ジョルジュ・バルビエ(George Barbier, 1882-1932)とジャン＝エミール・ラブルール(Jean-Émile Laboureur, 1877-1943)を紹介したものである。

二つの大戦間にあたる1920年代、フランスはバブル景気に沸き、モードや建築、出版業界に華やいだ空気が広がった。「アール・デコ」と呼ばれるこのモダンな時代の美をヴィヴィッドに映し出した一つの分野がグラフィック・アートである。そのイラストレーターの中で、今回紹介したバルビエは、モード雑誌や文学の挿絵、舞台装飾まで手がけ、優美な色彩により一世を風靡、一方のラブルールは、都会の風景や人間像をシャープな線描

によってクールでドライに描いて人気を博した。

対照的なスタイルの両者だが、実はどちらもフランス西部の町ナントに生まれ、同地の慧眼なる共通のコレクターに見出されて才能を開花させている。両者ともこの時代の経済的な繁栄とともに作品を生み出した。アール・デコのモダンを語る上で欠かせない芸術家であったということも、本展を通して見ることができた。

バルビエのファッション・プレートや豪華挿絵本、ラブルールの版画作品や挿絵本、あわせて約120点を紹介し、グラフィック・アートの黄金時代を堪能できる展覧会となった。



ポスター



図録



ジュニアガイド

# 出品目録

## ジョルジュ・バルビエ

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	『ジュルナル・デ・ダム・エ・デ・モード』		ポショワール	
1-1	パリの衣装:夏の装い(夏服)―フーラルのスカートに寒冷紗ブラウス	1912		22.5×13.5
1-2	パリの衣装:グログラン・タッサー(絹の薄い横畝地)飾りのついたフーラルのビーチ・ドレス、赤いエードの帽子	1912		22.3×14.0
1-3	パリの衣装:バラ色の縁取りが施された白色ラシヤ地のドレス、かぎ針編みのバラのベルト	1912		22.5×14.2
1-4	パリの衣装:衿と袖口にキツネの毛皮をあしらったクロテンの毛皮のコート	1912		22.5×14.2
1-5	パリの衣装:青ギツネの毛皮で飾られたピンク色ダマスク織りのコート、黒い極楽島の被り物	1912		22.5×14.0
1-6	パリの衣装:ラインストーンで飾ったチュールと黒いサテンのイヴニングドレス	1913		22.3×14.5
1-7	パリの衣装:サン・モリッツ用に―ウール刺繍と、スカンクの毛皮で飾った白いラチネ織	1913		22.5×14.3
1-8	パリの衣装:ロンギ風の仮装―白い組紐で縁取りしたダマスク織のドレス、黒いタフタとレースのパウタ(カーニバル用マスク)	1913		22.4×14.1
1-9	パリの衣装:シルクのプロケード織りの室内用ドレス、胸元を開けて覗かせた白い寒冷紗の下着	1913		22.3×14.4
1-10	パリの衣装:イヴニングドレス―淡いピンク色のモスリンのブラウス、「東インド会社」風の刺繍が施された絹のチュニック	1913		22.3×14.3
1-11	パリの衣装:チュールとサテンのイヴニングドレス、真珠の房付きの肩章	1913		22.1×14.2
1-12	パリの衣装:寒冷紗の衿とカフス付きのグレータフタのドレス、七宝のボタンのついたサテンのジレ	1913		22.0×14.1
1-13	パリの衣装:プリーツスカートに絹の日本風ブラウス、白色のセーラースタイル	1913		22.0×14.3
1-14	パリの衣装:ベルベットの小さなマント、寒冷紗のドレス	1914		22.3×14.3
1-15	パリの衣装:緑色のラチネ織りと黒色のベルベットのスーツ、苺色のタフタのジレ(ベスト)	1914		22.1×14.3
1-16	パリの衣装:ヨットの衣装:毛織物(ラシヤ)のジャケット、平織り地のスカート、皮の帽子	1914		23.0×15.2
	『ジュルナル・デ・ダム・エ・デ・モード』	1914年3月1日号ほか		
2	『ガゼット・デュ・ボン・トーン―芸術、モードおよび流行』		ポショワール	
2-1	スズメと戯れる美女:パカンの訪問用ドレス	1912		24.4×18.9
2-2	コルヒウム:パカンの旅行用コート	1914		24.8×19.1
2-3	輪廻し遊び:パカンのアフタヌーンドレス	1913		24.7×19.2
2-4	少しだけ…:パカンの気軽な田舎風ドレス	1913		24.4×19.2
2-5	何も言わないで…:パカンのアフタヌーンドレス	1913		24.8×19.2
2-6	ほら、お花に、フルーツに、葉っぱ、そして枝…:パカンのイヴニングドレス	1913		25.0×19.4
2-7	素晴らしい小さな魚…:夏のドレス	1914		24.4×19.0
2-8	ヴィシー(1)またはみんなお利口にしてね	1915		23.7×36.8
2-9	ヴィシー(2)または人形遊び	1915		24.5×37.2
2-10	煙:ペールのイヴニングドレス	1921		24.1×19.2
2-11	憂鬱な散歩者:ペールのアフタヌーンドレス	1922		24.7×18.8
	『ガゼット・デュ・ボン・トーン―芸術、モード、および流行』	1921		
	『1915年のモード』	1915		
3	『モード・エ・マニエール・ドール・ドール・ドール(今日のモードと着こなし)』 第3年	1914	ポショワール	
3-1	早起きの美人:君を知ったのはあの朝のこと、ああ早起きの美人よ! 忘れないで…			27.6×18.0
3-2	水盤:彼女は裸で、黒色と白色の大理石の舗床にはめ込まれた水盤の真ん中に立っている。			27.6×18.0
3-3	一陣の風(突風):あれは、この世で一番美しい季節で、太陽が春の空に輝いていたときのこと…			27.6×18.0
3-4	移り気な鳥:昔、私は一羽のオウムを飼っていて、すっかり夢中になっていました。			27.6×18.0
3-5	赤い弓:ある日、退屈していた私は、気まぐれに大きな紅い弓を手にとった…			27.6×18.0
3-6	水面の正午:小船の後ろにまっすぐ立つ練習をした夏のあの日のことを思い出しておくれ…			27.6×18.0
3-7	小島:珊瑚の小島はこの広大で青い海の真ん中で、何と小さいのだろう! …			27.6×18.0

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
3-8	夜のバラ:その晩、私は昔のブーケのことをどうして思い出したのかわからない…			27.6×18.0
3-9	シェエラザード:ああシェエラザードよ、君はまた、千と一夜目にも、じっと耳を傾けている気まぐれなスルタンを楽しませたのだ…			27.6×18.0
3-10	ボックス席:彼女の夫は、白い手袋をはめた彼の大きな握りこぶしを、ボックス席のへりで支えている…			27.6×18.0
3-11	ダンス:私は美男子だ。私のやせた体にゆったりとした金のドレスがまわりついてくる。その体が黒い漆の羽目板の窪みにびったりとおさまると…			27.6×18.0
3-12	アルルカン:あいつが何を言うか、私には分かっている。なぜなら、あいつは「欲望」だから。私たちはあの時二人とも「欲望」そのものだった。「欲望」が私たちであるように…			27.6×18.0
4	『フイエ・ダール』「一人にしておいて！」	1919	ポシヨワール	32.5×25.7
5	『ギルランド・デ・モワ(月々の花飾り)』 第1年	1917	ポシヨワール	12.1×8.2
6	『ギルランド・デ・モワ(月々の花飾り)』 第2年	1918	ポシヨワール	12.1×8.2
7	『ギルランド・デ・モワ(月々の花飾り)』 第3年	1919	ポシヨワール	12.1×8.2
8	『ギルランド・デ・モワ(月々の花飾り)』 第4年	1920	板目木版	12.1×8.2
9	『ギルランド・デ・モワ(月々の花飾り)』 第5年	1921	板目木版	12.1×8.2
10	『ボヌール・デュ・ジュール(現代の幸福あるいは流行のエレガンス)』 序文	1920	カラー銅板および手彩色	33.5×46.2
10-1	ヴェルサイユの連合軍			33.5×46.2
10-2	祖母と孫娘			33.5×46.2
10-3	1920年のワイルドな美女たち			33.5×46.2
10-4	牧神の午後			33.5×46.2
10-5	恋は盲目			33.5×46.2
10-6	虹			33.5×46.2
10-7	真夜中！…または、流行のアパルトマン			33.5×46.2
10-8	ケシ商人の家にて(阿片窟にて)			33.5×46.2
10-9	漆器趣味			33.5×46.2
10-10	正装のソレル嬢			33.5×46.2
10-11	自宅のスピネリ嬢			33.5×46.2
10-12	君、背中を見せすぎだよ			33.5×46.2
10-13	ハートを狙って、美しい御婦人がた！			33.5×46.2
10-14	リド島にて			33.5×46.2
10-15	扇子			33.5×46.2
10-16	さようなら…			33.5×46.2
11	『ファルバラ・エ・ファンフルリュシュ(ひだ飾りとレース飾り)ー現在・過去・未来のモード・カレンダー 1922』 表紙	1922	ポシヨワール	26.3×17.0
11-1	日時計			
11-2	昼と夜			
11-3	いいわよ！			
11-4	輪投げ遊び			
11-5	悦楽のドレス			
11-6	蝶々			
11-7	彼女と彼			
11-8	攻撃			
11-9	愛しい鳥			
11-10	村一番のいい男			
11-11	愛の語らい			
11-12	花言葉			
12	『ファルバラ・エ・ファンフルリュシュ(ひだ飾りとレース飾り)ー現在・過去・未来のモード・カレンダー 1923』 表紙	1923	ポシヨワール	26.0×17.4
12-1	厳粛なメロディー			
12-2	エステ荘			
12-3	見て、これが私の翼よ！			
12-4	言葉なきロマンス			
12-5	ショールの趣味			
12-6	ミズーリ川に沿って			
12-7	麗しき怠惰			
12-8	恐がらないで、お嬢さん！			

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
12-9	お前、こっちへいらっやい！			
12-10	詩人の(ように夢想する)恋人			
12-11	パン(牧神)の横笛			
12-12	2つの情熱的な恋のはざ間で			
13	『ファルバラ・エ・ファンフルリュシュ(ひだ飾りとレース飾り)ー現在・過去・未来のモード・カレンダー 1924』 表紙	1924	ポショワール	26.4×17.5
13-1	帰還			
13-2	ブランコ			
13-3	パリスの審判			
13-4	舞踏大会でのソレル嬢			
13-5	困難な告白			
13-6	ボロ競技で			
13-7	美しい島民			
13-8	誓いは忘れないわ			
13-9	セレナード			
13-10	素敵だわ			
13-11	不意打ちのキス			
13-12	父親の祝福			
14	『ファルバラ・エ・ファンフルリュシュ(ひだ飾りとレース飾り)ー現在・過去・未来のモード・カレンダー 1925』 表紙	1925	ポショワール	26.2×17.3
14-1	欲張り			
14-2	羨望			
14-3	怒り			
14-4	大食			
14-5	快樂			
14-6	自尊心			
14-7	怠惰			
14-8	はつかねずみ			
14-9	古代ギリシアの都市パエストゥム			
14-10	昔々あるところに			
14-11	目隠し鬼ごっこ			
14-12	割れた水差し			
15	『ファルバラ・エ・ファンフルリュシュ(ひだ飾りとレース飾り)ー現在・過去・未来のモード・カレンダー 1926』 表紙	1926	ポショワール	25.9×17.4
15-1	大地			
15-2	突風			
15-3	花火			
15-4	水			
15-5	春			
15-6	夏			
15-7	秋			
15-8	冬			
15-9	朝			
15-10	夜			
15-11	さくらんぼ			
15-12	興味深いモデル			
16	『ヴァーツラフ・ニジンスキーのダンスを描いたジョルジュ・バルビエのデッサン』より [同定できないが恐らく]『オリエンタル』のシャムの踊り(1910年初演) [同定できないが恐らく]クレオパトラ(1909年初演) [同定できないが恐らく]『饗宴』の「火の鳥」(1909年初演)(ただしストラヴィンスキーの同名のバレエとは別) シェエラザード(1910年初演) レ・シルフィード(1909年初演) ナルシス(1911年初演) 薔薇の精(1911年初演) ベトルーシュカ(1911年初演) 牧神の午後(1912年初演)	1913	ポショワール	33.5×28.0

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
17	『ジョルジュ・バルビエとジャンニールイ・ヴォードワイエがタマラ・カルサーヴィーナに捧げるアルバム』より 遊戯(1913年初演) ナルシス(1911年初演) 薔薇の精(1911年初演) サロメの悲劇(1913年初演) サロメの悲劇(1913年初演) タマラ(1912年初演)	1914	ポシヨワール	33.8×27.8
18	『「雅歌」に寄せたジョルジュ・バルビエの17葉のデッサン』	1914	ポシヨワール	23.0×22.3
19	ルネ・ボワレーヴ著『二匹の緑色蜥蜴の引く馬車—妖精物語』	1921	ポシヨワール	29.4×20.8
20	ピエール・ルイス著『ピリチスの歌』	1922	板目木版	33.0×26.7
21	アルバール・フラマン著『コメディの登場人物』	1922	板目木版	37.7×29.0
22	モーリス・ド・ゲラン著『散文詩』	1928	板目木版	25.6×21.0
23	リチャード・ル・ガリエンス著『香りのロマンス』	1928	カラーオフセット 印刷	25.3×17.0
24	ポール・ヴェルレーヌ著『艶なる宴』	1928	ポシヨワール	30.5×23.5
25	マルセル・シュウオップ著『ヴィ・イマジネール(架空伝記集)』	1929	板目木版	27.5×24.0
26	テオフィル・ゴージェ著『ミイラ物語』	1929	板目木版	20.9×15.3
27	コデルロス・ド・ラクロ著『危険な関係』	1934	ポシヨワール	26.7×20.3
28	エドモン・ロスタン著『エドモン・ロスタン全集』	1910(05) -1911(23)	カラー写真製版	30.2×22.5
29	サンシュド・グラモン著『アンテロス—散文詩』	1913	板目木版	21.0×15.8
30	アルフレッド・ド・ミュッセ著『戯れに恋はすまじ』	1920	板目木版	20.5×15.0
31	ルネ・ボワレーヴ著『バーデン・バーデンの湯治場』	1921	板目木版	23.5×14.0
32	ジアコモ・カサノヴァ著『カサノヴァの至福の時間』	1923	板目木版	26.3×19.5
33	アンリ・ド・レニエ著『罪ある女』	1924	ポシヨワール	20.5×15.7
34	アンリ・ド・レニエ著『二重の愛人』	1928	ポシヨワール	20.3×15.5
35	アンリ・ド・レニエ著『ムッシュド・ブレオの出会い』	1930	ポシヨワール	20.5×15.7
36	アンリ・ド・レニエ著『逃亡』	1931	ポシヨワール	20.5×15.4
37	ルノー社 1919年型モデル 40CV-6CYLINDRE のポスター「最初の花」	1919	カラー写真製版	20.5×26.5
参考作 品	ジョルジュ・ルパップ画 ルノー社 1920年型モデル TORPEDO DU SALON TYPE HD 40CV-6CYLINDRE のポスター	1920	カラー写真製版	20.5×26.5
38	『セーヌ・ド・ラ・ヴィ・パリジエンス(パリ生活情景)』ゲント博覧会の思い出—ボン・マルシェ百貨店』	1913	カラー写真製版	19.3×15.5
39	『1922年のブランタン百貨店のためのエレガントなモード』より	1922	カラー写真製版	25.2×23.2
40	『ラール・エ・レ・ザルティスト』	1911年4月号 1914年7月号	カラー写真製版	29.8×21.0
41	『フェミナ』	1913年7月号 1923年7月号	カラー写真製版	35.5×28.5 34.0×25.5
42	『ラ・ヴィ・パリジエンス』	1916年6月24日号 1916年8月12日号 1924年1月26日号	カラー写真製版	34.5×26.5
43	『ファンタジオ』	1915年5月15日号 (1915-18年)	カラー写真製版	28.7×20.5
44	『ラ・バイオネット』	1915-18	カラー写真製版	
45	『リリュストラシオン』クリスマス特集号	1920-25	カラー写真製版	45.0×30.0
46	『パノラマ・ドラマティック:カサノヴァ ジョルジュ・バルビエによる舞台装飾と衣装』	1921	ポシヨワール	25.5×20.3

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
46	表紙			
46-1	カサノヴァ			
46-2	無言の従僕			
46-3	ペルリーヌ侯爵夫人			
46-4	エルヴィール			
46-5	王女アルドブランディエーノ			
46-6	アクト1ー放蕩者の寝室			
46-7	カサノヴァの登場			
46-8	エルヴィールの登場			
46-9	カサノヴァ			
46-10	エルヴィール			
46-11	2人のすばらしい黒人男性			
46-12	ペルリーヌ侯爵夫人			
46-13	大公妃			
46-14	黒人女性			
46-15	ハミルトン卿夫人			
46-16	若きモーツァルト			
46-17	自由奔放な王妃			
46-18	女中			
46-19	エルヴィール			
46-20	アクト2ーヴェニスのホテルのサロン			
46-21	カサノヴァ			
46-22	デュック将校			
46-23	エルヴィール			
46-24	王妃			
47	『25の舞台衣装』	1927	ポシヨワール	32.5×24.5
48	『ラ・ルヴェ・デ・フォリ・ベルジェール』	1924(1923-1928)	カラー写真製版	
49	バラマウント映画『ムッシュ・ボケール』(ヴィンテージ・スチール写真、パンフレット)			
50	「リリュストラシオン」1925年2月21日号『ムッシュ・ボケール』の紹介記事		カラー写真製版	
51、52	バルビエの原画			
51	男性		紙、鉛筆・水彩	35.8×26.0
52	女性		紙、鉛筆・水彩	24.4×26.0
53	『挿絵画家ージョルジュ・バルビエ』	1929		26.5×20.5
54	シャルル・マルタン《バルビエの肖像》			
55	バレエ・リュス 公式プログラム コメディア・イリュストレ編	1914		
56	オーブリー・ピアズリー画 オスカー・ワイルド著『サロメ』	1907(初版は1894年)		26.0×19.8
57	『ハイ・ライフ・テイラー』編「昔日のダンス」			

ジャン＝エミール・ラブルール

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	フィブス 第1ステート	1897	板目木版	20.0×10.2
2	フィブス 第2ステート	1897	板目木版	20.0×10.2
3	ブロードウェイ、ニューヨーク	1907	エッチング/アクアチント	19.1×15.4
4	花売り娘	1909	カラー・リトグラフ	30.0×17.0
5	ブルジョワ夫妻の散歩	1910	板目木版	28.0×27.8
6	スナップショット	1911	カラー地の板目木版	33.5×26.2
6-1	表紙《楕円形の鏡》	1911		33.0×26.5 (ヴィニエット: 5.8×4.7)
6-2	水差し	1911		17.3×26.2
6-3	体を拭く	1911		17.6×9.7
6-4	鏡の前で	1911		17.7×11.1
6-5	ベッド	1911		25.0×33.0
6-6	香水	1911		11.0×9.5
6-7	洗面器	1911		17.7×12.1
7	スパイ	1916	エングレーヴィング	17.5×13.7
8	ブチ・フルを乗せた皿	1920-22	エッチング、エングレー ヴィング	18.6×18.4
9	花瓶	1922	エッチング、アクアチント /ルーレット	16.9×15.8
10	造花(バラ)	1924	エングレーヴィング	21.8×14.0
11	牡蛎剥き女	1927-28	エングレーヴィング	19.9×15.9
12	アスパラガスとラディッシュ	1928	エングレーヴィング	16.5×22.5
13	洋梨	1929-30	エングレーヴィング	20.3×14.9
14	昆虫学者	1932-33	エングレーヴィング	34.7×39.7
15	アンドロメダ	1935	エングレーヴィング	45.4 × 30.7
16	1937年の万国博覧会	1937	エングレーヴィング、ドラ イポイント	30.3×39.5
17	猫のいる蔵書票	1906	エッチング	13.0×11.9
18	自画像	1907 (1988年の後刷り)	板目木版	9.7×8.6
19	ロベール・ルネ・ギヨー誕生のお知らせ	1927	エングレーヴィング	9.5×11.0
20	人形のいる蔵書票	1928	エングレーヴィング	10.9×9.5
21	海洋生物1:三匹の魚	1934 (1988年の後刷り)	エングレーヴィング	17.8×13.8
22	海洋生物2:三匹のタラ	1934 (1988年の後刷り)	エングレーヴィング	17.8×13.8
23	海洋生物3:ヤドカリ	1934 (1988年の後刷り)	エングレーヴィング	17.8×13.8
24	海洋生物4:小エビ	1934 (1988年の後刷り)	エングレーヴィング	17.8×13.8
25	海洋生物5:アナゴ	1935 (1988年の後刷り)	エングレーヴィング	17.8×13.8
26	ロジェ・アラール著『少女たちのアパートマン』	1919	エングレーヴィング	19.8×11.7
27	アンドレ・ピイ著『夢で書く』	1920	写真製版	21.0×14.7
28	ジャック・カゾット著『恋する悪魔』	1921 (制作:1920年)	エッチング	23.2×14.0
29	J・ヴァルミー＝ベース著『百貨店情景』	1924 (制作:1921年)	エングレーヴィング	24.0×20.0
30	ペトロニウス著『サテュリコン』	1922	ビュラン彫りの板目木版 の写真製版	19.6×12.6
31	コレット著『ミュージック・ホール裏側』	1926 (制作:1925年)	エングレーヴィング	24.7×19.1
32	レミ・ド・グールモン著『ある女の夢想』	1925	エングレーヴィング	25.5×17.8
33	ジャン・ジロドゥー著『エレースとトゥグラ、またはバリの楽しみ』	1925	エングレーヴィング	19.2×14.5
34	ジャック・ド・ラクルテル著『シルベルマン』	1925	エングレーヴィング	22.6×14.0
35	エミール・ジェラル＝ガイイ著『どんぐりとカボチャ』	1927 (制作:1926年)	エッチング	20.0×14.7
36	オーギュスト・ド・ヴィリエ・ド・リラダン著『3つの残酷物語』	1927 (制作:1926年)	板目木版	各24.1×17.0
37	レミ・ド・グールモン著『色彩』	1929 (制作:1926年)	エッチング、アクアチント /ルーレット	24.0×16.0

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
38	17世紀の匿名の作家『フロランドの好色一代記』	1928 (制作:1926年)	エッチング、エングレー ヴィング	25.5×17.0
39	ヴァレリー・ラルボー著『200の寝室、200の浴槽』	1927 (制作:1926年)	エングレーヴィング	22.0×13.8
40	モーリス・ボーブール著『ブローローニュの森の季節』	1928 (制作:1927年)	エッチング	24.5×19.0
41	オーギュスト・ジルベール・ド・ヴォワザン著『私好みのページ』	1929 (制作:1928年)	エングレーヴィング	19.4×14.4
42	オスカー・ワイルド著『ドリアン・グレイの肖像』	1928	エングレーヴィング/ ルーレット	28.8×21.0
43	アンドレ・ジッド著『法王庁の抜け穴 1～5』	1929-30 (制作:1929年)	エッチングとルーレット	各25.8×17.2
44	ジャン・ジロドゥー著『ジークフリートの遁走曲(フーガ)』	1929	エッチング	19.7×14.5
45	アリストファネス著『平和』	1930 (制作:1929年)	エングレーヴィング	26.2×18.2
46	スタンダール著『緑の猟騎兵』	1929	エッチング	26.0×19.5
47	ポール=ジャン・トゥーレ著『コントルリム(反脚韻詩)』	1930 (制作:1929-30年)	エングレーヴィング	31.0×24.4
48	モーリス・メーテルランク著 1. 蜜蜂の生活	1930	エングレーヴィング	19.5×14.3
49	モーリス・メーテルランク著 2. 白蟻の生活	1930	エングレーヴィング	19.5×14.3
50	モーリス・メーテルランク著 3. 蟻の生活	1930	エングレーヴィング	19.5×14.3
51	ジャン・ジロドゥー著『ユディット』	1931	エングレーヴィング	24.5×19.5
52	マルセル・ブルーノ著『花咲く乙女たちの影に』	1948 (制作:1931年)	サンギース(紅柄チョー ク)刷り版画、若干のニス	各28.3×19.5
53	モーリス・トエスカ著『プリエールのラブルール』	1959 (制作:1932年)	エングレーヴィング、エッ チング	30.4×24.7
54	『フイエ・ダール』より「花屋にて」	1919年12月15日号	エッチング	33.0×26.3
55	『リマージュ』より「リュクサンブール」	1897年	板目木版画からの写真 製版	20.4×13.1
56	『15枚の絵葉書』より「田舎の郵便配達員」	1925 (制作:1924年)	板目木版	22.1×16.0
57	『ル・ヌヴェル・イマジエ』より「ルキアノス 神々の対話」	1914 (制作:1913年)	板目木版	30.0×24.5
58	『ナント・アミュザン』より「エルネスト」	1903	板目木版画からの写真 製版	28.0×20.0
59	『ラ・ルヴュ・ミュージカル特別号 ワグナーとフランス』より「ワグナーの肖像」	1923	エングレーヴィングから の写真製版	25.9×19.5
60	ジャン=エミール・ラブルール著『オリジナル版画についての考察』	1928	エングレーヴィング	24.0×29.5
61	ジャン・ジロドゥー、マルセル・ヴァロテール著『挿絵画家—ラブルール』	1929	エングレーヴィング、エッ チング、板目木版	26.5×20.7
62	デュノワイエ・ド・スゴンザック画《ラブルールの肖像》 (『挿絵画家—ラブルール』より)	1929		
63	ジョルジュ・カミュゼ著『医師のソネット』	1926	エッチング	22.3×16.4
64	フランソワ・モーリアック著『ナイフの一撃』	1926	エングレーヴィング	21.5×16.0

## ◎印刷物・会場作成物

・図録 B5変形(25.7×19.0cm)270頁

『鹿島茂コレクション2 バルビエ×ラブルール アール・デコ、色彩と線描のイラストレーション』

内容:

巻頭図版

目次

鹿島茂「モダンの誕生」

図版・解説

ジョルジュ・バルビエ

第1章 BARBIER ファッション・プレート

第2章 BARBIER 挿絵本

第3章 BARBIER 広告と定期刊行物

第4章 BARBIER 舞台の衣装と原画

ジャン＝エミール・ラブルール

第5章 LAROUREUR 豪華挿絵本

第6章 LABOUREUR 挿絵本

第7章 LABOUREUR 定期刊行物と著作

小野寛子「「バル・エポック」から「レ・ザネ・フォル」へーラブルールが見た2つの時代」

ジョルジュ・バルビエ略年譜

ジャン＝エミール・ラブルール略年譜

主要参考文献

図版リスト

装丁・レイアウト:清水恭子

製作:茂木光治

発行:株式会社求龍堂

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド 蛇腹折り、76.8×18.2cm(仕上がりサイズB6)

・パネル

挨拶2枚、章解説7枚、略歴2枚

・会場配布用作品リスト

## ◎主要関連記事

(長文記事は末尾に\*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

〔新聞等〕

・朝日ぐんま

4.26

「気鋭のバイオリニスト 成田達輝さん 前橋と館林で演奏会」

5.17

「演奏会&レセプションを初コラボ 館林美術館と群馬日仏協会」

・ANタイムズ

4.1

「鹿島茂コレクションより！！」

・群馬日仏協会会報セラヴィ

4月1日号

「お知らせ！ 鹿島茂コレクションーバルビエ×ラブルール展ー」

・上毛新聞

4.30

「美術館 弾むバイオリン 館林 成田さんが演奏」

5.9

「恩返しにバイオリン 成田さん公演前に来社」

・東京新聞

5.22

「アール・デコに酔う 館林 仏作家2人の作品展」\*

・日本経済新聞

6.13

「ジョルジュ・バルビエ「移り気な鳥」(1914年)」〈アート・トーキング〉\* (学芸員 松下和美)

・読売新聞

4.28

「アール・デコ期2画家作品展 県立館林市美術館 鹿島氏所蔵120点公開」\*

5.30

「県立館林美術館「バルビエ×ラブルール展」④ 時代を経てなおモダン」\* (学芸員 松下和美)

6.4

「県立館林美術館「バルビエ×ラブルール展」④ ギリシャ世界への憧憬」\* (学芸員 松下和美)

6.6

「県立館林美術館「バルビエ×ラブルール展」⑤ 小説の瀟洒な雰囲気と呼応」\* (学芸員 松下和美)

・群馬よみうりピバ！アミーゴ

6.1

「雨の日は美術(アート)に触れよう ただいま開催中 鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展」\*

〔定期刊行物〕

・人間会議

夏号

「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展」〈ART&EVENT〉

・ぶらぶら美術館・博物館 プレミアムアートブック2013-2014

「群馬県立館林美術館」〈全国オススメ美術・博物館55〉

・ミセス

6月号

「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展」〈Art〉

◎放送

[テレビ]

・NHK教育

5.19

「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展」(日曜美術館アートシー  
ン)

・群馬テレビ

6.25

「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展 県立館林美術館」<  
ニュースeye>

[ラジオ]

・FM群馬

4.25

「企画展示「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展 —アール・デ  
コのモダンなイラストレーション」のお知らせ」<ぐんま情報トッピング>

6.18

「企画展示「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展 —アール・デ  
コのモダンなイラストレーション」関連行事」<ぐんま情報トッピング>

・FM太郎

5.16

「「鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展 アール・デコのモダン  
なイラストレーション」のお知らせ」<ぐんまいきいき情報>

◎関連事業

・コンサート

4.29

ヴァイオリン・コンサート

ヴァイオリン:成田達輝 ピアノ:テオ・フシュヌレ

・トーク&カフェ

5.19

トーク&カフェ「クレールさんに聞く、フランス・ナントの町あれこれ」

講師: 亀山クレール氏 (アトリエ「Petite Usine (プティット・ウジヌ)」講  
師、グラフィックデザイナー)

・ギャラリートーク

5.26

鹿島茂氏によるギャラリートーク「アール・デコの挿絵本、あるいは絶滅  
した恐竜」

講師: 鹿島茂



展示室4



展示室4



展示室3



展示室2

## 2. 簀内佐斗司展「やまとぢから」

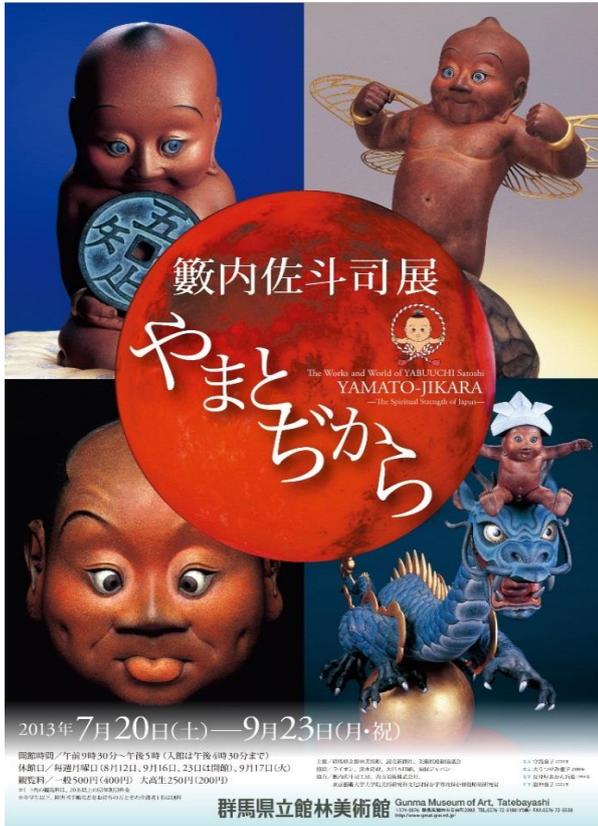
会期 平成25年7月20日(土)～9月23日(月・祝)  
 会場 展示室1、2、3、4  
 主催 群馬県立館林美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
 協賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン  
 協力 簀内佐斗司工房、青山美術株式会社、東京藝術大学大学院 美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室  
 観覧料 一般:500(400)円、大高生:250(200)円  
 ( )内は20名以上の団体割引料金

ここに置き忘れてしまった古代からの生命観と仏教的世界観である。

本展覧会は、簀内佐斗司の30年以上におよぶ活動を総合的に紹介しながら、彼が追求してきた日本人のこころをみつめなおした。

彫刻家・簀内佐斗司(やぶうちさとし)は、1979年の初個展以来、木彫作品を中心に多彩な表現活動を続けてきた。また2004年からは、東京藝術大学大学院文化財保存学教授として、仏像の材料技法の研究と文化財保護を担当し、後進の育成と彫刻文化財の保存修復に大きな実績を上げている。近年では、平城遷都1300年祭公式キャラクター「せんとくん」の制作を機に、仮面舞踏団「平成伎楽団」をプロデュースしてますますその活動の幅を広げている。

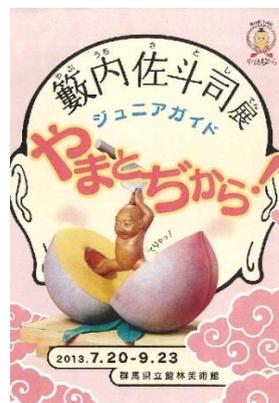
彼の活動の源泉は、明治以降の近代化の過程で日本人がど



ポスター



図録



ジュニアガイド

# 出品目録

## 第1部 こころとからだ

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
1	あ	1979	檜、アクリル	徳島県立近代美術館
2	あ・い・う・え・お	1980	檜、漆、顔料	石巻文化センター
3	陽子	1988	檜、漆、顔料	ウッドワン美術館
4	犬モ歩ケバ	1989	檜、漆、顔料、組紐	兵庫県立美術館
5	まっちょ	1989	檜、漆、顔料	スガキコシステムズ(株)
6	女の鎧ーおつまみ	1990	檜、漆、顔料	刈谷市美術館
7	男の鎧ー阿	1991	檜、漆、顔料	刈谷市美術館
8	男の鎧ー呷	1991	檜、漆、顔料	刈谷市美術館
9	五月魚	1991	檜、漆、顔料	個人蔵
10	薔薇童子	1992	檜、漆、顔料	スガキコシステムズ(株)
11	反骨屋あかん兵衛	1994	檜、漆、顔料	個人蔵
12	禅寺丸	1995	檜、漆、顔料	個人蔵
13	走る童子	1996	ブロンズ、彩色	新潟県立近代美術館・万代島美術館
14	福祿寿三童子	1996	檜、漆、顔料、馬毛	スガキコシステムズ(株)
15	稚児大師	1998	檜、漆、顔料	個人蔵
16	大勝ち虫童子	1999	檜、漆、顔料	作家蔵
17	ばど坊	1999	檜、漆、顔料	フォーティファイブアール ピーエムスタジオ株式会社
18	鹿茸童満悦	1999	檜、漆、顔料	スガキコシステムズ(株)
19	福和来	1999	檜、漆、顔料	丸大産業(株)
20	美々丸(卯年舞妓)	1999	檜、漆、顔料	丸大産業(株)
21	大うっせみ童子	2000	檜、漆、顔料	作家蔵
22	深源の童子たち 寿童子	2001	檜、漆、顔料、馬毛	個人蔵
23	深源の童子たち 大黒童子	2001	檜、漆、顔料	個人蔵
24	深源の童子たち 末広童子	2001	檜、漆、顔料	個人蔵
25	深源の童子たち 朝露童子	2001	檜、漆、顔料	個人蔵
26	おんなの鎧ー03	2003	檜、漆、顔料	ウッドワン美術館
27	矜羯羅童子	2003	檜、漆、顔料	個人蔵
28	制多迦童子	2003	檜、漆、顔料	個人蔵
29	不動明王	2003	檜、漆、顔料	個人蔵
30	龍神童子	2003	檜、漆、顔料	個人蔵
31	天神祭童子	2005	檜、漆、顔料	個人蔵
32	念仏むじな	2005	ブロンズ、彩色	作家蔵
33	御造酒童子	2006	檜、漆、顔料	ウッドワン美術館
34	囲碁童子	2006	檜、漆、顔料	個人蔵
35	常世殷賑尊	2007	檜、漆、顔料	個人蔵
36	小雷公虹をつかむ	2007	檜、漆、顔料	(株)山手画廊
37	桃太郎、白刃取り	2008	檜、漆、顔料	個人蔵
38	竹林小町	2008	檜、漆、顔料	個人蔵
39	長寿萬歳翁	2008	檜、漆、顔料、馬毛	個人蔵
40	伐折羅童子	2008	檜、漆、顔料	スガキコシステムズ(株)
41	宮毘羅童子	2008	檜、漆、顔料	スガキコシステムズ(株)
42	足柄童子	2008	檜、漆、顔料	個人蔵
43	守銭童子	2009	檜、漆、顔料	個人蔵
44	果報の童子	2009	檜、漆、顔料	個人蔵
45	文殊童子	2009	檜、漆、顔料	個人蔵
46	普賢童子	2009	檜、漆、顔料	個人蔵
47	竜宮童子	2010	檜、漆、顔料	個人蔵
48	五月童子	2010	檜、漆、顔料	個人蔵
49	出陣童子	2010	檜、漆、顔料	個人蔵
50	富本犬	2011	檜、漆、顔料	作家蔵
51	猛虎出陣童子	2011	檜、漆、顔料	個人蔵
52	縁結び七福童子	2011	檜、漆、顔料	個人蔵
53	葉風ひこ、葉風ひめ	2011	檜、漆、顔料	個人蔵
54	鰻登り童子	2011	檜、漆、顔料	個人蔵
55	縁結び九州連坊	2011	檜、漆、顔料	個人蔵
56	商売繁盛がねしあ童子	2011	檜、漆、顔料	個人蔵
57	地鎮め童子	2011	檜、漆、顔料	丸大産業(株)
58	大青龍	2012	檜、漆、顔料	作家蔵

No.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵
59	雲上快晴天童童子	2012	檜、漆、顔料	個人蔵
60	とび丸	2012	檜、漆、顔料	作家蔵
61	福丸	2012	檜、漆、顔料	個人蔵
62	みちのく復興し童子	2012	檜、漆、顔料	個人蔵
63	和顔施合掌地藏 パネル	2012	松、漆、顔料	九州旅客鉄道株式会社
64	和顔施さずな地藏尊 パネル	2013	松、漆、顔料	岡寺山 継松寺
65	うむぎ姫	2013	檜、漆、顔料	作家蔵
66	因幡の白うさぎ	2013	檜、漆、顔料	作家蔵
67	大国主尊とすせり姫	2013	檜、漆、顔料	作家蔵
68	三種の神器	2013	檜、漆、顔料	作家蔵
69	ぬながわ姫	2013	檜、漆、顔料	作家蔵
70	和顔施坊	2013	檜、漆、顔料	作家蔵
71	T-Rex「ティララ」	2013	FRP	作家蔵
72	騎臺守銭童子		檜、漆、顔料	個人蔵

## 第2部 平成伎楽団

73	せんとくん	2008		奈良県
74	五鹿坊(黒・白・赤・黄・青)	2008	漆、麻、顔料	作家蔵
75	阿修羅童子	2008	漆、麻、顔料	作家蔵
76	鹿翁	2008	漆、麻、顔料	作家蔵
77	酒仙童子	2008	漆、麻、顔料	作家蔵
78	善財童子	2008	漆、麻、顔料	作家蔵
79	龍神童子	2009	漆、麻、顔料	作家蔵
80	五智童子	2009	漆、麻、顔料	作家蔵
81	迦楼羅童子	2009	漆、麻、顔料	作家蔵
82	治道翁	2009	漆、麻、顔料	作家蔵
83	小天狗	2009	漆、麻、顔料	作家蔵
84	沙羯羅童子	2009	漆、麻、顔料	作家蔵
85	悟空	2010	漆、麻、顔料	作家蔵
86	猪八戒	2010	漆、麻、顔料	作家蔵
87	沙悟浄	2010	漆、麻、顔料	作家蔵
88	乾闥婆童子(赤・白)	2010	漆、麻、顔料	作家蔵
89	龍神	2012	漆、麻、顔料	作家蔵
90	魔王	2012	漆、麻、顔料	作家蔵
91	九尾の狐	2012	漆、麻、顔料	作家蔵
92	まりおねっと童子	2012	漆、麻、顔料	作家蔵
92	九尾の狐 白狐隊	2012	漆、麻、顔料	作家蔵

## 第3部 伝世古～文化財保護への取組

94	阿弥陀如来坐像	2005～2006修復	檜、漆、顔料	西念寺(茨城)
95	観音菩薩立像	2010～2011修復	檜、漆、顔料	青松寺(東京)
96	狛犬像	2010～2011修復	檜、漆、顔料	個人蔵(東京)
97	阿弥陀如来立像	2011～2012修復	檜、漆、顔料	個人蔵(東京)
98	快慶作 大日如来坐像 模刻	2010	檜、漆、顔料	東京藝術大学
99	六波羅蜜寺 広目天立像 模刻	2011	檜、漆、顔料	鈴木篤
100	伎楽面 酔胡王 復元模刻	2011	檜、漆、顔料	早稲田大学 坪内博士記念 演劇博物館
101	東京国立博物館 観音菩薩立像 模刻	2012	檜、漆、顔料	小島久典
102	伎楽面 崑崙 復元模刻	2012	檜、漆、顔料	早稲田大学 坪内博士記念 演劇博物館
103	伎楽面 呉公 復元模刻	2012	檜、漆、顔料	早稲田大学 坪内博士記念 演劇博物館
104	願成就院 毘沙門天立像 模刻	2012	檜、漆、顔料、玉眼、金箔	静岡銀行

## ◎印刷物・会場作成物

・図録 A4変形(25.7×19.0cm) 144頁

内容:

序にかえて

寄稿「アイデアと隠れぬもの」—やまとちからとの対話(伊東順二)

図版

第一部 ころとからだ

寄稿「彫刻家 簗内佐斗司を考える」(山田泰啓)

第二部 平成伎楽団

寄稿「平成伎楽団の今日的意義と未来」(竹本幹夫)

第三部 伝世古 文化財保護への取り組み

寄稿「美術の無力・美術のちから」(深谷聡)

第四部 文献資料

簗内佐斗司資料

発行:青幻舎

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド 蛇腹折り、590×210mm(仕上がりサイズA5)

・パネル

挨拶1枚、章解説3枚、年譜1枚、項目解説5枚(「平成伎楽団」「せんとかんのそのなかまたち」「東日本大震災に関連して」「模刻・新制作」「修復」)

・会場配布用作品リスト

## ◎主要関連記事

(長文記事は末尾に\*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

[新聞等]

・朝日新聞

8.7

「やさしいトークで作品紹介 群馬県立館林美術館(ギャラリートーク)」(美博なう)

・産経新聞

8.19

「簗内佐斗司展～やまとちから」

・上毛新聞

8.28

「せんとかんと記念撮影 美術館で観覧ツアー」\*

・上毛新聞シャトル

7.19

「簗内佐斗司展 あすスタート 30年以上の活動を館林美術館で紹介」

・読売新聞

8.5

「仏像の衣装着用 館林で体験教室(ワークショップ)」\*

9.12

「ゆるキャラ表現のゆくえ」\*

9.14

「簗内佐斗司展 やまとちから 上 肉体の「はかなさ」」\*(学芸員 神尾玲子)

9.19

「簗内佐斗司展 やまとちから 中心に宿る「童子」」\*(学芸員 神尾玲子)

9.20

「簗内佐斗司展 やまとちから 下 東北の大地を進め」\*(学芸員 神尾玲子)

[定期刊行物]

・芸術新潮

8月号

「群馬県立館林美術館 簗内佐斗司展「やまとちから」」(invitation exhibition)

・月刊アートコレクターズ

1月号

「簗内佐斗司展」

・raifu

9月号

「県立館林美術館」

[その他]

・簗内佐斗司やまとちから報告書(青山美術株式会社、2014年1月)

## ◎放送

[ラジオ]

・FM太郎

7.30

「企画展示「簗内佐斗司展 やまとちから」のお知らせ<ぐんまいいきき情報>

8.22

「企画展示「簗内佐斗司展 やまとちから」アーティストトーク&平成伎楽団パフォーマンスのお知らせ<ぐんまいいきき情報>

## ◎関連事業

・ワークショップ

8.4

簗内佐斗司ワークショップ「ほとけさまのコスチュームを着てみよう」

講師:簗内佐斗司

8.25

「粘土で自分だけの守り神を作ろう!」

協力:群馬県立女子大学 奥西ゼミ

・アーティストトーク&パフォーマンス

8.31

アーティストトーク&平成伎楽団パフォーマンス

講師: 藪内佐斗司

出演: 平成伎楽団「あめのうずめ組」(組長: 堀之内真平)、フィリップ・エマール(ゲストパフォーマー)



展示室1



展示室2



展示室3



展示室4

### 3. 山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで

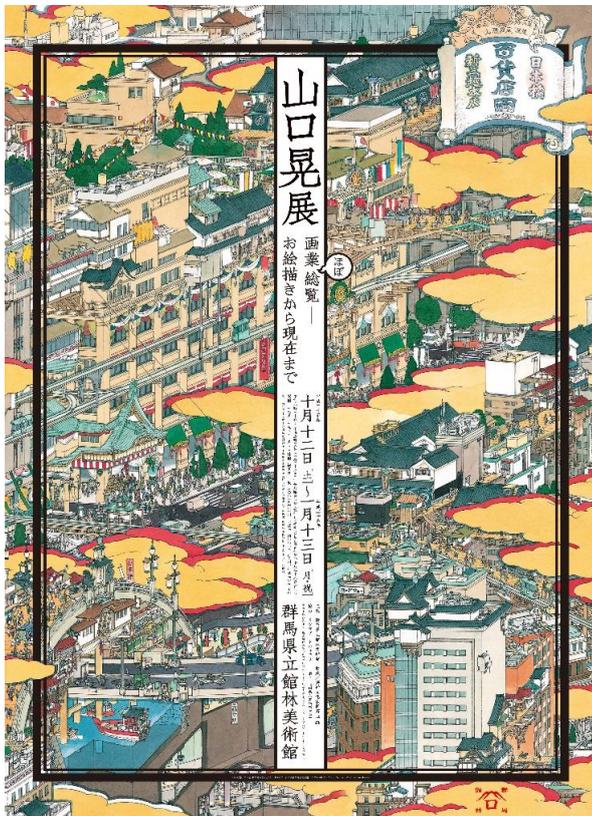
会期 平成25年10月12日(土)～平成26年1月13日(日)  
 会場 展示室2、3、4  
 主催 群馬県立館林美術館  
 助成 芸術文化振興基金  
 協力 ミヅマアートギャラリー  
 観覧料 一般:800(640)円、大高生:400(320)円  
 ( )内は20名以上の団体割引料金

山口晃は、日本の古典的な絵画や古今東西のさまざまな美術を探究し、私たちの日常生活をふまえて、時間と空間、自然と人工物とを自由自在に交錯、融合させた世界を、卓越した描写力によって表す作家として高く評価されている。作品は、精妙巧緻を極めかつ軽妙洒脱で、鋭い批評精神とユーモアにあふれており、年齢や性別を問わず多くの人々の共感をよんでいる。近年、その活動は、書籍や新聞小説の挿絵、パブリックアート、CDジャケットやCM原画、他の分野とのコラボレーション、文筆活動まで広くおよんでいる。

本展示会は、山口晃が幼少期から高校卒業までをすごした群

馬での初めての回顧展として開催したものである。山口の原点ともいえる子供のころの「お絵描き」から現在までの画業を、ほぼ総覧できるよう、代表的な絵画や立体作品に加えて、当地に関係した新作、20年ぶりに公開された《自画像》などが一堂に会し、多彩な内容で山口晃の世界に迫った。特に群馬との関連では、「山口晃と桐生」のセクションで紹介した、4歳から中学校時代までのお絵描き、桐生高校時代に所属していた文芸部の部誌、桐生のギャラリー・ラベンダーでの初個展で発表された作品や、その個展を契機に依頼、制作され、このたび初出品となった板絵、さらに本展のために新作として制作された、群馬の郷土かるた「上毛かるた」を題材とした作品などがみどころとなった。

会期中の関連事業では、トークショー、記念対談、高校連携事業の特別講義として作家が3度登壇し、様々な話題にふれながら、自らの言葉で今日までの歩みや制作の意図、作品について語る充実した内容となった。



ポスター



図録



ジュニアガイド

# 出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	洞穴の頼朝	1990	油彩・カンヴァス	116.7×91.0	
2	どぶ川のほとり	1991	油彩・カンヴァス	91.0×73.3	
3	落馬	1991	油彩・カンヴァス	116.7×90.0	
4	大師橋圖畫 大師橋圖畫(平面図及び断面図)	1992 1992	ペン、油彩・紙 ペン・紙	116.5×181.0 99.3×65.0(平面図)、 64.5×49.5(断面図2点)	
5	十字軍	1993	ペン・紙	120.0×90.0	
6	孫悟空	1993	水彩・紙	45.8×31.2	個人蔵
7	自画像	1994	油彩・カンヴァス	52.7×45.5	東京藝術大学
8	深山寺参詣圖	1994	油彩・カンヴァス	170.0×210.0	鳴子温泉郷 仙庄館
9	アナトミー	1995	水彩、鉛筆・紙	14.2×9.3	石坂孟士氏蔵
10	オリバー君	1995	水彩、鉛筆・紙	14.9×10.0	個人蔵
11	出現Ⅰ	1995	水彩、鉛筆・紙	14.3×9.5	石坂孟士氏蔵
12	出現Ⅲ	1995	水彩、鉛筆・紙	14.7×9.8	小池一正氏蔵
13	志ん生十八番 芝浜	1995	水彩、鉛筆・紙	14.2×9.6	石坂孟士氏蔵
14	百貨店圖(日本橋)	1995	油彩・カンヴァス	91.0×143.4	
15	筆あそび	1995	水彩、鉛筆・紙	14.4×9.4	石坂孟士氏蔵
16	山乃愚痴明抄	1995	油彩・カンヴァス	91.0×436.2	中川諭吉氏蔵
17	信仰	1995	水彩、鉛筆・紙	14.9×10.0	個人蔵
18	無題	1996	油彩・板	14.8×167.0	庄屋久平 杉山順二氏蔵
19	「こたつ派」展DM用原画	1997	ペン、水彩・紙	10.0×15.0	宮誠氏蔵
20	個展「イスのある茶室」DM用原画	1998	水彩、鉛筆・紙	15.0×10.0	宮誠氏蔵
21	當吉おばか合戦	1999	油彩・カンヴァス	97.0×324.0	高橋コレクション
22	ビデオ用リモコン/宇宙船	1999	鉛筆・紙	各38.0×56.0 (2点組)	清水紳一氏蔵
23	個展「借景」DM用原画	1999	水彩、鉛筆・紙	15.0×10.0	宮誠氏蔵
24	頼朝像図版写し	1999	油彩・カンヴァス 図録2冊	各81.0×65.0 (2点組)	高橋コレクション
25	今様遊楽圖	2000	油彩・カンヴァス	71.0×342.0	高橋コレクション
	今様遊楽圖(下図)	2000	鉛筆、ペン・カンヴァス	71.0×342.0	高橋コレクション
26	個展DM用原画	2000	水彩、鉛筆・紙	15.0×10.0	宮誠氏蔵
27	遠見の頼朝共時性	2000	油彩・カンヴァス	81.0×65.0	高橋コレクション
28	厩圖	2001	油彩・カンヴァス	74.0×175.0	高橋コレクション
29	個展「畫を描く歎び」DM用原画	2001	水彩、胡粉・紙	22.0×14.8	宮誠氏蔵
30	悲シクモ不埒ナル目差シノ自画像	2001	油彩・カンヴァス、変形木枠	53.5×46.0	宮誠氏蔵
31	ダクト圖	2001	油彩・カンヴァス	117.5×74.0	個人蔵
32	何かを造ル圖	2001	油彩・カンヴァス	112.0×372.0	高橋コレクション
33	両洋な目一階段参詣圖	2001	油彩・カンヴァス	各64.5×44.7 (2点組)	個人蔵
34	携行折畳式喫茶室	2002	波板、木、紙、その他	215.0×88.0× 214.0	
35	日清日露戦役擬畫	2002	水彩、ペン、鉛筆・紙	全60点	
36	NHKデジタル放送開始告知番組の為の原画より「祝 放送開始」	2003	水彩、ペン・紙	23.0×39.0	
37	NHKデジタル放送開始告知番組の為の原画より「地上デジタル放送成る」	2003	水彩、ペン・紙	22.3×35.3	
38	九相圖	2003	油彩・カンヴァス	73.0×244.0	高橋コレクション
39	五武人圖	2003	墨・紙	各170.0×60.0	高橋コレクション
40	樊墮不楽圖	2003	油彩、水彩・カンヴァス	73.0×336.0	個人蔵
41	すゞしろ日記	2003	墨・紙	90.0×180.0	
42	すゞしろ日記 洋行編	2003	墨・紙	90.0×186.0	
43	中西夏之氏公開制作之圖	2003	油彩・カンヴァス	50.0×292.0	
44	花圖	2003	油彩・カンヴァス	80.3×197.0	高橋コレクション
45	フェニックス(澁エンナーレ第1、3回展出品作)	2003	ペン・紙、灰、ビン、デジタルチャンネル・デジタルビデオ	映像:3分50秒	
46	鍊金術(澁エンナーレ第1、3回展出品作)	2003	マジックペン、水彩・画用紙、色セロハン、針		
47	澁澤龍彦著『猿園』挿画(全26点)	2003	水彩、ペン、鉛筆・紙		
48	胎内めぐり圖	2004	油彩、水彩・カンヴァス	140.0×80.0	個人蔵
49	百貨店圖 日本橋 新三越本店	2004	水彩、ペン・紙	59.4×84.1	株式会社三越伊勢丹

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
50	百貨店圖 日本橋三越	2004	水彩、ペン・紙	84.1×59.4	株式会社三越伊勢丹
51	百貨店圖 日本橋三越	2004	水彩、ペン・紙	59.4×84.1	株式会社三越伊勢丹
52	倉敷金刀比羅圖	2005	油彩、水彩、墨・カンヴァス	120.0×150.0	大原美術館
53	公共広告機構マナー広告『江戸のしぐさ』の為の原画より「傘かしげ」「こぶし腰うかせ」	2005	水彩、ペン・紙	29.4×41.6	
54	公共広告機構マナー広告『江戸のしぐさ』の為の原画より「感謝の目つき」「東の間のつきあい」	2005	水彩、ペン・紙	29.4×41.6	
55	ドナルド・キーン著『私と20世紀のクロニクル』挿画(全63点より10点)	2006	水彩、ペン、鉛筆・紙		
56	槇原敬之「LIFE IN DOWNTOWN」CD歌詞カード原画(全12カット)	2006	水彩・紙		槇原敬之氏蔵
57	槇原敬之「LIFE IN DOWNTOWN」CDジャケット原画	2006	水彩、ペン・紙	19.5×69.5	槇原敬之氏蔵
58	槇原敬之「ほんの少しだけ」シングルCDジャケット原画	2006	水彩、ペン・紙	17.5×26.2	槇原敬之氏蔵
59	三浦しをん著『風が強く吹いている』単行本表紙原画	2006	水彩、ペン・紙	31.3×50.5	個人蔵
60	三浦しをん著『風が強く吹いている』挿画(全5点)	2006	鉛筆、水彩、ペン・紙		個人蔵
61	絵はこんなに役に立つ(澁エンナーレ第2、3回展出品作)	2007	アクリル絵具・カンヴァス	各65.5×53.0	
62	置換性(澁エンナーレ第2、3回展出品作)	2007	図版・パネル	49.3×36.8、35.2×50.2	
63	邸内見立 洛中洛外圖	2007	油彩、水彩、墨・カンヴァス	80.0×130.0	個人蔵
64	五木寛之著『親鸞』挿画(全354点より24点)	2008	水彩、ペン、鉛筆・紙		
65	自由研究(柱華道)(17点組)	2008	ペン、水彩、墨・紙		株式会社ダブルラック
66	千鉢佛造立乃圖	2009	油彩、水彩、墨・カンヴァス	73.0×182.0	個人蔵
67	三浦しをん著『風が強く吹いている』文庫本表紙原画	2009	水彩、墨、ペン・紙	32.5×24.3	個人蔵
68	五木寛之著『親鸞 激動篇』挿画(全336点より45点)	2011	水彩、ペン、鉛筆・紙		
69	ワールドアパートメント	2011	シングルチャンネル・デジタルビデオ(ループ)		
70	Tokio山水(東京圖2012)	2012	墨・カンヴァス	四曲一双 各162.0×342.0	
71	WORLD ORDER 「2012」歌詞カード原画(全7点)	2012	水彩、鉛筆、ペン・紙	29.7×19.0(4点) 19.0×15.0(2点) 30.0×19.0	須藤元気氏蔵
72	WORLD ORDER 「2012」メインジャケット原画	2012	水彩、ペン・紙	29.8×29.8	須藤元気氏蔵
73	五木寛之著 新聞小説『親鸞 完結篇』挿画(33)	2013	水彩、ペン、鉛筆・紙		
74	解説(澁エンナーレ第4回展出品作)	2013	スチレンボード	各20.0×20.0	
75	「システムシリーズ」より(澁エンナーレ第4回展出品作)				
	リヒターシステム	2013	ミクストメディア		
	ヤマグチシステム	2013	アクリル板、和紙、群馬県立館林美術館展覧会フライヤー		
76	千軒長屋(澁エンナーレ第4回展出品作)	2013	ミクストメディア、シングルチャンネル・デジタルビデオ(ループ)		
77	よくある事さ(澁エンナーレ第4回展出品作)	2013	ミクストメディア、シングルチャンネル・デジタルビデオ		
78	偽史和人伝中茸取物語	2013	ペン、水彩・紙、かるた		
	[参考資料] こどもの頃のお絵描き		紙・鉛筆ほか		
	[参考資料] 高校時代の教科書(中村光夫「移動の時代」掲載)		書籍		
	[参考資料] 群馬県立桐生高等学校 文芸部誌『洋燈』第4・5・6号	1986,87,88	書籍		群馬県立桐生高等学校
	[参考資料] 群馬県立桐生高等学校 昭和62年度卒業アルバム	1988	書籍		群馬県立桐生高等学校
	[参考資料] 習作	1988-89	油彩・カンヴァス	65.2×53.0	個人蔵
	[参考資料] スケッチブック(4冊)	1996,1998,1998-99,2002	水彩、ペン、鉛筆・紙	各12.2×17.7	

## ◎印刷物・会場作成物

・図録 A4判変形 (22.0×27.9mm) 152頁

内容:

ごあいさつ

会場風景

今展の新作について(山口晃)

図版

山愚痴屋諦堂誕生

身のおきどころ

山口晃と桐生

幼少期の晃の生活(山口晃)

山愚痴屋澱エンナーレ

百人百態

眺望絶佳

ものがたる絵画

ひろがる山愚痴屋の世界

関連事業の記録

出品リスト

山口晃略年譜

主要参考文献

執筆:山口晃、山口昇、中島幸子(群馬県立館林美術館学芸員)

編集:松下和美(群馬県立館林美術館学芸員)

編集協力:長田実穂(ミヅマアートギャラリー)

翻訳:スタンリー・N・アンダソン

デザイン:栗原幸治(クリ・ラボ)

制作:印象社

印刷:株式会社 東京印書館

発効日:平成26年3月25日

発行:群馬県立館林美術館

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド 観音型四つ折り、21.0×59.2cm(仕上がりサイズA5)

・パネル

挨拶1枚、作家ポートレート1枚、略歴1枚、章解説8枚

・会場配布用作品リスト

## ◎主要関連記事

(長文記事は末尾に\*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

[新聞等]

・朝日新聞be

11.30

「日本の油絵、時空を超えて 画家 山口 晃さん(44歳)」〈フロントランナー〉\*

12.7

「画家の山口晃さんを紹介しました。」〈みなさんから〉

・朝日ぐんま

12.20

「桐生時代のお絵描きから最新作まで約80点」〈Culture〉\*

1.17

「山口晃さんの作品展に足を運んだ。」〈からっ風〉\*

・おたタイムス

10.19

「群馬で初の回顧展 山口晃展 館林美術館」\*

・夕刊 桐生タイムス

10.10

「ふるさとならでは 画業ほぼ総覧 12日から館林美で「山口晃展」」\*

10.15

「桐生出身の人気画家 山口晃さん「画業ほぼ総覧」開幕」\*

10.18

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「深山寺参詣圖」

10.19

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「何かを造ル圖」(部分)」

10.22

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「邸内見立 洛中洛外圖」(部分)」

10.23

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「百貨店圖 日本橋 新三越本店」

10.24

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「倉敷金刀比羅圖」

10.25

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「三浦しをん著『風が強く吹いている』表紙原画」

10.26

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「千棘佛造立乃圖」

10.28

「画業ほぼ総覧 山口晃作品から「自画像」

11.11

「山口晃さん(44)がトークショー サイン会に150人行列」\*

12.9

「山口晃さんが記念対談 幼少時から現在まで語る」\*

「山口晃展見て感動しました」〈なんでもダイアル〉

12.19

「面白きかな縁」〈ぞうき林〉

1.11

「山口晃さん 高校生にレクチャー 館林美の回顧展 13日に最終日」\*

・産経新聞

10.7

「画家で初 山口晃さん「小林秀雄賞」受賞」\*

10.17

「山口晃展」〈展覧会ガイド〉

10.25	「群馬県立館林美術館ベア入場券 山口晃展」〈プレゼント〉	・クロワッサン プレミアム
	・上毛新聞	12月号
10.13	「上毛かるた 題材に新作 山口晃展開幕」*	「《邸内見立 洛中洛外圖》が見られる 山口晃展 画業ほぼ総覧」〈Art〉
10.19	「現代芸術の旗手を総覧 館林美術館で山口晃展」*	・芸術新潮
	「インタビュー 自分の到達過程 絵に」*	11、12月号
10.28	「山口さんの全体像を紹介する個展「画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈三山春秋〉	「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈invitation exhibition〉
		・月刊アートコレクターズ
11.18	「桐生の思い出 絵の作風語る 館林で山口さん」*	12月号
12.13	「県立館林美術館で開催中の「山口晃展」〈三山春秋〉	「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈展覧会のご案内〉
	・東京新聞	・月刊京都
10.17	「山口晃さん初の回顧展 技とユーモア 画風に納得」*	10月号
	・毎日新聞	「現代の絵師たち 山口晃」
10.25	「山口晃絵画展：人気 桐生の雲、作品に投影 対談や特別講義を予定— 県立館林美術館」*	・kotoba
	・群馬よみうり ビバ！アミーゴ	第14号、冬号
10.11	「山口晃展 館林美術館で開催 桐生で青春時代 群馬にちなんだ新作も」*	「はみ出た自分とははみ出すアート『山愚痴屋澱エンナーレ』」*
	・群馬よみうりhuman	・コンフォルト
12.13	「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」	2月号
		「ミクロとマクロの世界を行ったり来たり 山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈REVIEW〉*
[定期刊行物]		・週刊ポスト
・いけ花 龍生		11月1日号
12月号		「現代アートの異才 山口晃の世界」
「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで 繊細かつユーモア、山口晃の回顧展」〈展覧会情報〉		・シュプール
・エクラ		11月号
1月号		「山口晃とポチ」
「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈アート〉		2月号
・カーサ ブルータス		「山口晃「ワンだふる アートワールド」」〈ART〉*
1月号		・日経おとなのOFF
「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈IN AND OUT DOORS〉		1月号
・ギャラリー		「浮世絵の楽しみ方 画家 山口晃さん」〈おとなの美術教室〉
9、10、11、12、1月号		・VISA
「群馬県立館林美術館 山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈Schedule Museum〉		12月号
		「ドキドキしながら「山口晃展」へ 原画に感涙し、得意の妄想力も発揮 緻密な絵画の世界を旅する」〈旅する好奇心 三浦しをん〉*
		・美術手帖
		10、12、1月号、
		「群馬県立館林美術館 山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈ART NAVI〉
		11月号
		「あなたの知らない山口晃 山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈山口晃 トークショー+サイン会〉〈ART NAVI〉
		2月号
		「山口晃」〈ARTIST INTERVIEW〉*
		・美術の窓
		10、11、12、1月号

「山口晃展」〈展覧会情報〉

12月号

「小林秀雄賞受賞・故郷で個展を開催中 山口晃さんインタビュー」〈異論反論・現代美術〉\*

・婦人画報

1月号

「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで 注目の一枚 山口晃《自画像》」〈Art〉

・PAPER'S

No.45、冬号

「紙について話そう。山口晃・佐藤直樹」

・ホームバンク

Vol.82

「群馬県立館林美術館 秋の企画展「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」〈美術館に行こう〉

・MUSEUM CAFE MAGAZINE

11月号 Vol.2

「feature 山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで 画伯って、一体何者なんですか？」\*

・渡良瀬通信

10月号

「画家 山口晃さん」〈minimu interview〉\*

12月号

「山口晃《邸内見立 洛中洛外圖》」〈誌上美術館〉\* (学芸員 中島幸子)

◎放送

[テレビ]

・群馬テレビ

10.22

「県立館林美術館 山口晃展 生中継」〈ニュースeye8〉

・館林ケーブルテレビ

1.8~10

「山口晃展」〈CC9ニュース〉

[ラジオ]

・FM太郎

10.31

「「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」のお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

11.21、12.17、1.7

「「山口晃展」子どもギャラリートークスペシャル「親子で楽しむ〈山口晃展〉」のお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

◎関連事業

・トークショー+サイン会

11.10

「山口晃 トークショー+サイン会」

講師: 山口晃

・記念対談

12.8

「山口晃と桐生」

講師: 山口晃(画家) 聞き手: 養崎昭子(桐生タイムス社記者)

・特別講義

1.10

「山口晃 特別講義」〈高校連携事業〉

講師: 山口晃

・ギャラリートーク

子どもギャラリートークスペシャル「親子で楽しむ〈山口晃展〉」

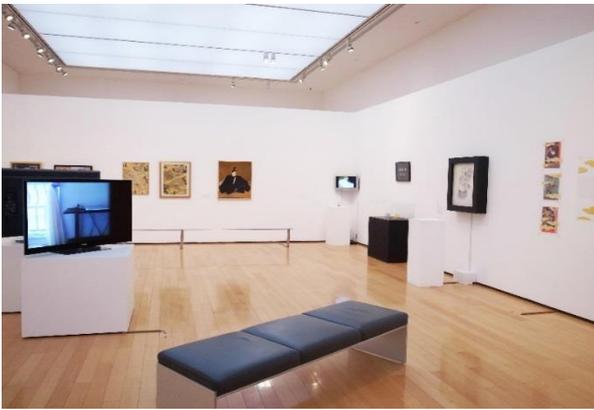
10.27、11.23、12.22、1.11



展示室4



展示室3



展示室2



展示室2

#### 4. シャガール 版画の世界

会期 平成26年2月1日(土)～4月6日(日)  
前期 2月1日(土)～3月2日(日)  
後期 3月4日(火)～4月6日(日)  
会場 展示室2、3、4  
主催 群馬県立館林美術館  
協賛 トラクソン  
観覧料 一般500(400)円 大高生250(200)円  
( )内は、20名以上の団体割引料金

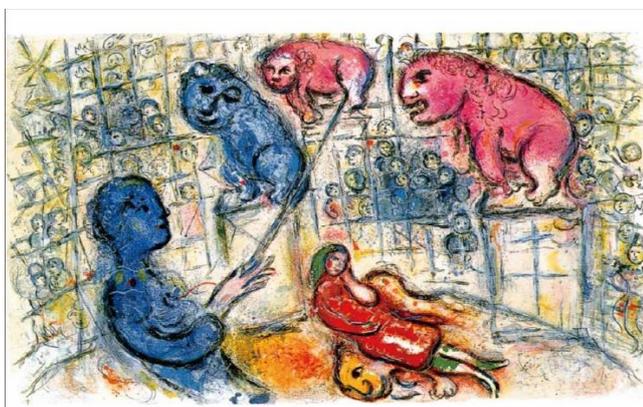
マルク・シャガールは、1887年白ロシア(現在のベラルーシ共和国)のヴィテブスクに、ユダヤ人一家の長男として生まれ、1985年南フランスのサン・ポール・ド・ヴァンスの自宅で没した。ほぼ1世紀にわたる彼の生涯は、第一次世界大戦、ロシア革命、第二次世界大戦という20世紀の激動の時代と共にあった。

ナチスによるユダヤ人迫害を含め、こうした悲惨な現実を体験しながらも、シャガールは、少年時代の原風景とも言える故郷の街

並みや人々、青年期を過ごしたパリの風物などを、奔放な想像力と華麗な色彩で、自分自身の夢と幻想を織り交ぜながら詩情豊かに描き続けた。

特に版画作品は、『ダフニスとクロエ』や『サーカス』のように、シャガール独特の詩情と色彩が、華麗な光の中で戯れているものから、『死せる魂』といったロシア的物語の世界が、モノクロームの形象表現で豊穣に綴られている作品まで、多様な魅力を湛えている。

本展は、シャガールが特に関心を持った、故郷への想い、愛の讃歌、物語の世界、サーカスへの憧憬といったテーマを、版画作品によって紹介した。



ポスター

# 出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵	前期	後期
1.	『死せる魂』(全96点)	1923-27 (1948刊行)	エッチング、ドライポイント、ア クアチント・ジャボン・ナクレ紙		群馬県立館林美術館		
1-1	チーチコフの到着			22.1×28.4		○	○
1-2	宿屋			22.1×28.7		○	○
1-3	小さな町			22.0×28.7		○	○
1-4	知事邸の夜会			22.1×28.7		○	○
1-5	ベトルーシカ			22.0×28.7		○	○
1-6	御者セリファン			22.0×28.7		○	○
1-7	道中			22.1×28.7		○	○
1-8	マニーロフ			28.7×22.1		○	○
1-9	扉口でのマニーロフとチーチコフ			28.7×22.1		○	○
1-10	マニーロフ邸の食事			22.1×28.7		○	○
1-11	管理人			28.7×19.5		○	○
1-12	マニーロフにいとまを告げるチー チコフ			22.7×29.3		○	○
1-13	ソバケーヴィッチ邸への途上			22.0×29.7		○	○
1-14	四輪馬車がひっくり返る			22.8×29.7		○	○
1-15	コロボチカ夫人			30.0×22.7		○	○
1-16	ベッドの上のチーチコフ			19.8×28.4		○	○
1-17	放し飼いの庭			22.5×29.3		○	○
1-18	朝のお茶			22.6×29.6		○	○
1-19	道案内			28.3×22.3		○	○
1-20	宿屋			28.0×23.2		○	○
1-21	宿屋での食事			21.5×28.8		○	○
1-22	ノズドリョーフ			28.8×23.1		○	○
1-23	ベンキ職人たち			29.0×23.0		○	○
1-24	カード			22.0×28.7		○	○
1-25	警察署長現わる			28.8×22.1		○	○
1-26	馬たちにえさを与える御者			21.5×28.6		○	○
1-27	路上の衝突			22.0×28.5		○	○
1-28	農民たち集まる			27.8×21.4		○	○
1-29	ミチャイ小父とミニヤイ小父			27.8×21.5		○	○
1-30	チーチコフの夢			28.0×21.2		○	○
1-31	ソバケーヴィッチの家			21.1×27.7		○	○
1-32	ソバケーヴィッチ			27.7×21.1		○	○
1-33	ソバケーヴィッチ夫人			27.7×21.1		○	○
1-34	食卓へ移る			21.1×28.0		○	○
1-35	支度のできた食卓			27.7×21.3		○	○
1-36	食卓のソバケーヴィッチ			21.5×28.0		○	○
1-37	チーチコフとソバケーヴィッチは 取引をする			21.3×27.8		○	○
1-38	肘掛け椅子の傍らのソバケー ヴィッチ			27.8×21.5		○	○
1-39	手付金			21.5×28.0		○	○
1-40	農民に出会う			27.8×21.5		○	○
1-41	ブリューシキンの村			21.3×27.8		○	○
1-42	ブリューシキンの古びた庭園			27.7×21.3		○	○
1-43	扉口のブリューシキン			27.9×21.3		○	○
1-44	ブリューシキンの部屋			27.7×21.4		○	○
1-45	橋の下で拾い集めるブリューシキ ン			27.7×21.2		○	○
1-46	ブローシカ			27.7×21.1		○	○
1-47	ブリューシキンが酒をすすめる			21.3×27.7		○	○
1-48	書類を探すブリューシキン			21.3×27.7		○	○
1-49	ブリューシキンとマーヴラの口論			21.3×27.7		○	○
1-50	入市税取立所にて			21.3×27.7		○	○
1-51	ゴーゴリとシャガール			27.5×21.2		○	○
1-52	シャツ1枚で大喜びするチーチコ フ			27.7×21.1		○	○

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵	前期	後期
1-53	耕作			21.3×27.7		○	○
1-54	間抜けな死			20.8×27.3		○	○
1-55	大工のプロープカ・スチェパン			27.7×21.2		○	○
1-56	靴屋のマキシム・チェリヤートニコフ			28.6×21.6		○	○
1-57	鼻持ちならない女			27.7×21.1		○	○
1-58	行けども行けども果てしなしのグリゴリー			21.9×28.6		○	○
1-59	旅券を所持せず警察署長イスブラーヴニクの前に立つ男			27.4×21.2		○	○
1-60	穀物波止場			21.1×27.7		○	○
1-61	曳舟人足たち			21.7×28.3		○	○
1-62	外套姿での出会い			27.5×22.0		○	○
1-63	裁判所			22.0×27.9		○	○
1-64	登記事務所			27.7×22.0		○	○
1-65	賄賂			22.0×27.0		○	○
1-66	証人たち			21.5×27.5		○	○
1-67	警察署長宅での宴会			27.7×21.8		○	○
1-68	パーヴェル・イワーノヴィッチは宿屋に戻される			27.7×21.8		○	○
1-69	ペトルーシカが長靴を脱がせる			27.7×22.0		○	○
1-70	ズボンにブラシをかける			27.7×22.0		○	○
1-71	ベッドに寝そべる			22.0×27.7		○	○
1-72	チーチコフの朝の身支度			27.7×22.0		○	○
1-73	舞踏会に現われたチーチコフ			22.0×27.7		○	○
1-74	知事邸での舞踏会			21.3×30.5		○	○
1-75	ノズドリョーフの暴露			27.7×21.0		○	○
1-76	街灯の傍らの番人			27.7×22.1		○	○
1-77	ただ感じのいい婦人と何事につけても感じのいい婦人			27.7×21.1		○	○
1-78	知事夫人は娘を叱りつける			27.8×21.1		○	○
1-79	酒宴はつかみあいとなる			23.3×27.7		○	○
1-80	裸で逃げだす			21.1×27.7		○	○
1-81	痩せ細った役人たち			27.7×23.7		○	○
1-82	役人たちの密談			23.0×27.7		○	○
1-83	コペイキン大尉かナポレオンか			27.7×21.0		○	○
1-84	検事死す			21.0×27.7		○	○
1-85	歯痛			27.7×21.0		○	○
1-86	チーチコフは髭を剃る			27.7×21.0		○	○
1-87	門番はチーチコフを通さない			27.7×23.6		○	○
1-88	われらが英雄は旅支度をする			27.7×21.0		○	○
1-89	検事の葬列			21.0×27.7		○	○
1-90	チーチコフの誕生			27.7×20.3		○	○
1-91	父親はチーチコフに体罰を与える			27.7×20.8		○	○
1-92	事務所で眠るチーチコフ			21.0×27.7		○	○
1-93	教会にて			27.7×21.0		○	○
1-94	税務監督局に新しい局長			21.0×27.7		○	○
1-95	税関吏チーチコフ			21.0×27.5		○	○
1-96	夕暮れのトロイカ			21.0×27.5		○	○
2.	『ダフニスとクロエ』(全42点)	1957-60 (1961刊行)	リトグラフ・アルシュ紙		群馬県立近代美術館		
2-1	扉絵			42.0×32.0		○	
2-2	ラモオンによるダフニスの発見			42.0×32.0		○	
2-3	ドリュアスによるクロエの発見			42.0×32.0		○	
2-4	ラモオンとドリュアスの夢			42.0×32.0		○	
2-5	小牧場の春			42.0×64.0		○	
2-6	狼を捕らえる罠			42.0×32.0		○	

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵	前期	後期
2-7	泉のほとりのダフニスとクロエ			42.0×32.0		○	
2-8	クロエの判断			42.0×64.0		○	
2-9	クロエの接吻			42.0×32.0		○	
2-10	ドルコオンの策略			42.0×32.0		○	
2-11	真昼、夏			42.0×32.0		○	
2-12	つばめ			42.0×32.0		○	
2-13	ドルコオンの死			42.0×64.0		○	
2-14	ニンフたちの洞穴			42.0×64.0		○	
2-15	ブドウの収穫			42.0×32.0		○	
2-16	《フィレータースの果樹園》夕暮 れのトロイカ			42.0×64.0		○	
2-17	フィレータースの教え			42.0×32.0		○	
2-18	メテュムナの若者たち			42.0×32.0		○	
2-19	クロエの誘拐			42.0×64.0		○	
2-20	ダフニスの夢とニンフたち			42.0×32.0		○	
2-21	ブリュアクシス将軍の夢			42.0×64.0		○	
2-22	ニンフたちへの捧げ物			42.0×32.0			○
2-23	牧神パンの饗宴			42.0×32.0			○
2-24	シュリンクスの伝説			42.0×32.0			○
2-25	冬			42.0×32.0			○
2-26	小鳥狩り			42.0×64.0			○
2-27	ドリュアス家での食事			42.0×64.0			○
2-28	春			42.0×64.0			○
2-29	ダフニスとリュカイニオン			42.0×32.0			○
2-30	木精			42.0×64.0			○
2-31	夏の季節			42.0×32.0			○
2-32	死せるイルカと三百エキュ			42.0×32.0			○
2-33	クロエ			42.0×32.0			○
2-34	果樹園			42.0×64.0			○
2-35	バックス神の物語と神殿			42.0×64.0			○
2-36	荒らされた花々			42.0×32.0			○
2-37	ダフニスとグナトオン			42.0×32.0			○
2-38	ディオニソファーネの到来			42.0×32.0			○
2-39	クリアリステエに着物を着せられ 髪を結ってもらうクロエ			42.0×32.0			○
2-40	祭りの間に娘を見出すメガクレエ ス			42.0×64.0			○
2-41	ニンフたちの洞穴での婚礼の祝 宴			42.0×64.0			○
2-42	結婚			42.0×64.0			○
3.	『寓話』(全100点)	1927-30 (1952刊行)	エッチング、アクアチント、ドラ イポイント、手彩色・リーヴ紙		群馬県立近代美術館		
3-1	カラスとキツネ			29.0×24.6			○
3-2	ウシと同じくらい大きくなりたいと 思ったカエル			29.5×23.5			○
3-3	二匹のラバ			29.5×24.9			○
3-4	ライオンと共同で事業をした牝ウ シと牝ヤギと牝ヒツジ			28.8×24.9			○
3-5	オオカミと小ヒツジ			28.1×24.5			○
3-6	男と鏡に映るその姿			29.2×24.0			○
3-7	死と不仕合わせな人			29.5×23.8			○
3-8	死と木こり			29.8×24.0			○
3-9	キツネとコウノトリ			29.5×23.6			○
3-10	子どもと学校の先生			29.5×24.1			○
3-11	オンドリと真珠			30.0×22.9			○
3-12	カシの木とアシ			29.3×23.3			○

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵	前期	後期
3-13	サルをまえにして争うオオカミとキツネ			29.6×24.1		○	
3-14	二匹の牡ウシと一匹のカエル			29.4×24.1		○	
3-15	矢に傷ついた鳥			29.2×23.6		○	
3-16	牝イヌとその友だち			29.6×23.7		○	
3-17	ワシとコガネムシ			29.6×23.9		○	
3-18	ライオンとブヨ			26.0×24.3		○	
3-19	海綿を背負ったロバと塩を背負ったロバ			30.0×24.5		○	
3-20	ライオンとネズミ			29.9×24.1		○	
3-21	ウサギとカエル			29.4×23.9		○	
3-22	オンドリとキツネ			28.6×24.6		○	
3-23	ワシのまねをしようとしたカラス			29.7×23.8		○	
3-24	ジュノンに不平を言うクジャク			29.6×24.0		○	
3-25	人間の女に変わった牝ネコ			29.7×24.2		○	
3-26	ライオンと狩りをするロバ			29.6×24.3		○	
3-27	イソップが説明した遺言書			29.3×24.7		○	
3-28	粉ひきとその息子とロバ			30.1×24.7		○	
3-29	羊飼になったオオカミ			29.6×23.9		○	
3-30	王さまを欲しがるかエルたち			29.5×23.6		○	
3-31	キツネとヤギ			29.7×24.3		○	
3-32	ワシとイノシシとネコ			29.5×24.0		○	
3-33	酔っぱらいとその奥さん			29.5×23.6		○	
3-34	オオカミとコウノトリ			29.3×23.7		○	
3-35	キツネとブドウ			29.5×24.0		○	
3-36	白鳥と料理人			29.3×23.8		○	
3-37	オオカミとヒツジたち			29.3×24.2		○	
3-38	年をとったライオン			29.6×24.6		○	
3-39	溺死した女			28.8×23.8		○	
3-40	恋するライオン			29.8×24.2		○	
3-41	羊飼と海			29.7×24.0		○	
3-42	男と木像			30.1×24.0		○	
3-43	クジャクの羽をつけたカケス			29.1×23.6		○	
3-44	ラクダと水に浮かぶ棒きれ			29.6×23.7		○	
3-45	シカに復讐しようとしたウマ			30.5×24.5		○	
3-46	キツネと胸像			29.4×23.8		○	
3-47	オオカミとヤギと小ヤギ			29.6×24.0		○	
3-48	オオカミと母親と子ども			29.1×23.2		○	
3-49	財産を失った守銭奴			29.6×24.4		○	
3-50	主人の目			29.7×23.9		○	
3-51	ヒバリとその子どもたちと畠の地主			29.7×24.0			○
3-52	木こりとメルキユール			29.6×23.9			○
3-53	陶器の壺と鉄の壺			30.0×23.6			○
3-54	小さな魚と釣り人			29.7×24.0			○
3-55	尻尾を切られたキツネ			29.5×25.1			○
3-56	年とった女とふたりの召使			29.5×24.0			○
3-57	サテュロスと旅人			29.1×23.9			○
3-58	運命の女神と少年			29.4×24.0			○
3-59	金の卵を産むメンドリ			29.3×23.8			○
3-60	シカとブドウの木			29.6×24.1			○
3-61	ワシとフクロウ			30.0×24.2			○
3-62	戦いに出かけるライオン			29.8×24.5			○
3-63	クマとふたりの友だち			29.8×24.0			○
3-64	ライオンの皮を着たロバ			29.4×24.0			○
3-65	ライオンと狩人			29.7×24.0			○
3-66	水に映った自分の姿を見るシカ			29.8×24.0			○
3-67	太陽とカエルたち			29.1×23.8			○

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵	前期	後期
3-68	村びととへび			29.2×23.9			○
3-69	ウマとロバ			29.6×24.1			○
3-70	ぬかるみにはまった荷馬車			29.2×23.8			○
3-71	香具師			29.8×24.2			○
3-72	若い未亡人			29.4×23.8			○
3-73	サギ			29.6×24.5			○
3-74	娘			29.5×23.9			○
3-75	乳しぼりの女と牛乳壺			29.2×23.6			○
3-76	司祭と死者			29.4×24.2			○
3-77	二羽のオンドリ			29.5×24.0			○
3-78	女易者			29.2×23.8			○
3-79	靴直しと金融家			30.0×24.6			○
3-80	女性と秘密			29.2×24.0			○
3-81	主人の食事を頭にぶら下げたイヌ			29.3×24.0			○
3-82	おどけ者と魚			29.3×24.1			○
3-83	クマと園芸の好きな人			29.5×24.0			○
3-84	ライオン王の妃の葬儀			29.5×23.8			○
3-85	ネズミとゾウ			29.1×24.0			○
3-86	ロバとイヌ			29.7×24.0			○
3-87	二羽のハト			29.5×24.2			○
3-88	サルとヒョウ			29.5×24.6			○
3-89	彫刻家とジュピテルの像			29.5×24.0			○
3-90	娘に変わったハツカネズミ			29.1×23.8			○
3-91	知恵を売る狂人			29.4×23.8			○
3-92	羊飼とヒツジの群れ			28.8×26.4			○
3-93	カメと二匹のカモ			29.3×24.4			○
3-94	シャコとオンドリたち			29.7×24.2			○
3-95	魚たちと笛を吹く羊飼			29.4×23.8			○
3-96	二羽のオウムと王さまと王子			29.5×23.8			○
3-97	ネコと二羽のスズメ			29.3×23.8			○
3-98	二匹の牝ヤギ			29.0×23.7			○
3-99	病気のシカ			29.3×24.0			○
3-100	キツネとシチメンチョウ			30.2×24.7			○
4.	『サーカス』(全38点)	1967	リトグラフ・アルシュ紙		群馬県立近代美術館		
4-1	扉絵			42.5×32.5			○
4-2	自転車乗りたち			42.5×32.5			○
4-3	緑の馬の上の女曲馬師			42.5×32.5			○
4-4	赤い服の女曲馬師			42.8×32.6			○
4-5	恋人たち			42.6×32.6			○
4-6	無題			42.3×32.5			○
4-7	無題			42.5×32.5			○
4-8	無題			42.3×32.7			○
4-9	大きな道化師			42.0×32.6			○
4-10	黄色の道化師			42.5×32.5			○
4-11	空中ブランコ乗りと曲芸師			42.5×32.6			○
4-12	リング			43.0×32.6			○
4-13	無題			42.3×32.7			○
4-14	無題			42.3×32.8			○
4-15	猛獣使い			42.5×32.6			○
4-16	オーギュスト			42.6×32.5			○
4-17	猛獣たち			42.4×65.0			○
4-18	無題			42.5×32.5			○
4-19	無題			42.5×32.5			○
4-20	無題			42.5×33.0			○

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵	前期	後期
4-21	馬たち			42.5×64.6			○
4-22	白い服の女曲馬師			42.5×32.7			○
4-23	黄色のリング			42.7×32.5			○
4-24	無題			42.5×32.5			○
4-25	無題			42.5×32.5			○
4-26	無題			42.7×32.6			○
4-27	青い女曲馬師			42.6×32.5			○
4-28	サーカス			42.5×65.0			○
4-29	無題			42.5×32.5			○
4-30	無題			42.5×32.7			○
4-31	無題			42.5×32.6			○
4-32	扇を持つ女曲馬師			42.5×32.5			○
4-33	花束を持つ娘			42.5×32.5			○
4-34	軽業師たち			42.4×32.5			○
4-35	空中ブランコ乗り			42.5×32.5			○
4-36	無題			42.3×32.5			○
4-37	無題			42.5×32.7			○
4-38	演奏する道化師			42.9×32.6			○
5.	『ボエム』(全24点)	1962-67 (1968刊行)	木版・紙(一部コラージュ 付)、リーヴ紙		群馬県立館林美術館		
5-1	I			32.2 ×24.7		○	○
5-2	II			32.2×24.7		○	○
5-3	III			32.2×24.7		○	○
5-4	IV			32.2×24.7		○	○
5-5	V			32.2×24.7		○	○
5-6	VI			32.2×24.7		○	○
5-7	VII			32.2×24.7		○	○
5-8	VIII			32.2×24.7		○	○
5-9	IX			32.2×24.7		○	○
5-10	X			32.2×24.7		○	○
5-11	X I			32.2×24.7		○	○
5-12	X II			32.2×24.7		○	○
5-13	X III			32.2×24.7		○	○
5-14	X IV			32.2×24.7		○	○
5-15	X V			32.2×24.7		○	○
5-16	X VI			32.2×24.7		○	○
5-17	X VII			32.2×24.7		○	○
5-18	X VIII			32.2×24.7		○	○
5-19	X IX			32.2×24.7		○	○
5-20	X X			32.2×24.7		○	○
5-21	X X I			32.2×24.7		○	○
5-22	X X II			32.2×24.7		○	○
5-23	X X III			32.2×24.7		○	○
5-24	X X IV			32.2×24.7		○	○

## ◎印刷物・会場作成物

- ・ポスター B2
- ・チラシ A4
- ・パネル

挨拶1枚、写真パネル2枚、作品解説5枚

- ・会場配布用作品リスト

## ◎主要関連記事

(長文記事は末尾に\*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

[新聞等]

- ・上毛新聞

2.8

「色彩で物語の世界観 館林美術館「シャガール 版画の世界」\*

- ・毎日新聞

3.13

「シャガールの版画展」〈冬風夏雷〉

- ・群馬よみうり ビバ! アミーゴ

2.7

「シャガールの魅力 紹介 館美で版画作品300点 4月6日まで」\*

- ・両毛新聞

1.25

「シャガール 版画の世界 群馬県立館林美術館」\*

[定期刊行物]

- ・ANタイムズ

2.20

「企画展示 シャガール 版画の世界 群馬県立館林美術館」

- ・ギャラリー

4月号

「シャガール 版画の世界」〈【特集】美術界カレンダー 2013〉

12、1、2、3月号

「群馬県立館林美術館 シャガール 版画の世界」〈Schedule Museum〉

- ・芸術新潮

2月号

「群馬県立館林美術館 シャガール 版画の世界」〈invitation exhibition〉

- ・美術の窓

2、3、4月号

「企画展「シャガール 版画の世界」〈展覧会情報〉

## ◎放送

[ラジオ]

- ・FM太郎

3.13

「展覧会「シャガール 版画の世界」記念コンサート 夢の花束について」

〈ぐんまいいきき情報〉

3.25

「子どもギャラリートークについて」〈ぐんまいいきき情報〉

## ◎関連事業

- ・ワークショップ

3.2

銅版画技法体験ワークショップ「アクアチントってなんだろう？」

講師:長野順子(銅版画家)

- ・コンサート

3.16

記念コンサート「夢の花束」(エラールのピアノによる)

出演:末高明美(ピアノ)、市川景之(伴奏・連弾ピアノ)、目崎ちひろ(ソプラノ)

- ・たてび土曜レクチャー「絵画と音楽」

3.15

「シャガールとドビュッシー」(エラールのピアノによる演奏付)

出演:澤田まゆみ(ピアニスト)、谷内克聡(当館学芸員)

3.22

「シャガールとラヴェル」(エラールのピアノによる演奏付)

出演:藤川温子(ピアニスト)、谷内克聡(当館学芸員)



展示室2



展示室3



展示室4



展示室4

---

第1期 4月27日(土)～6月30日(日)

展示室1

[近現代の彫刻]

---

第2期 7月20日(土)～9月23日(月・祝)

展示室4

[近現代の彫刻II・木版画]

---

第3期 10月12日(土)～1月13日(月・祝)

展示室1

[近現代の彫刻III]

---

第4期 2月1日(土)～4月6日(日)

展示室1

[近現代の彫刻IV－抽象的なかたち]

---

---

◎印刷物・会場作成物

[近現代の彫刻]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

[近現代の彫刻II・木版画]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

[近現代の彫刻III]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

[近現代の彫刻IV－抽象的なかたち]

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

---

近現代の彫刻 I

平成25年4月27日(土)～6月30日(日) 展示室1

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
だれのかお？						
1	フランソワ・ポンポン	ポール像	1884	テラコッタ	38.4 × 21.1 × 17.8	群馬県立館林美術館
2		サント・カトリーヌ	1886 - 1888	石膏	41.3 × 42.8 × 36.2	群馬県立館林美術館
3		コゼット	1888	ブロンズ	41.0 × 18.0 × 13.0	群馬県立館林美術館
4		ベルト・ポンポン	1894 - 1932	石膏	22.7 × 24.9 × 19.9	群馬県立館林美術館
5		クロード・レイ	1922	石膏	32.1 × 17.3 × 16.5	群馬県立館林美術館
6	アンリ・マルティネ	フランソワ・ポンポンの頭像	1933	石膏	47.9 × 18.9 × 27.8	群馬県立館林美術館
7	高田博厚	海	1962	ブロンズ	77.0 × 34.0 × 29.0	群馬県立館林美術館
8	佐藤忠良	男の顔	1965	ブロンズ	32.5 × 20.0 × 23.0	群馬県立館林美術館
どんなかお？						
9	フランソワ・ポンポン	ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館
10		シロクマ	1923 - 1933	大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
11		オラン・ウータン(頭部)	1930	石膏	34.3 × 23.0 × 20.0	群馬県立館林美術館
12		大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
13	チャーナ・オルロフ	鳥	1924	ブロンズ	100.5 × 32.2 × 30.0	群馬県立館林美術館
14	ジョアン・ミロ	鳥	1970	ブロンズ	60.7 × 40.7 × 40.7	群馬県立館林美術館
15	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951	スチール・ロッド	79.0 × 110.5 × 158.5	群馬県立館林美術館
16	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0 × 122.0 × 112.0	群馬県立館林美術館
17	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
18	チェスラフ・ズベール	ターコイズ・フォレスト	1994	ブロンズ、ガラス	46.0 × 51.0 × 35.0	群馬県立館林美術館
19	アーブラハム＝ダーフィット・クリスティアン	清らかな人 XI	1982	ブロンズ	166.2 × 57.8 × 28.0	群馬県立館林美術館
20	鶴岡政男	転がっている首	1950	ブロンズ	16.8 × 21.0 × 17.5	群馬県立館林美術館
21		ロレンスの顔	1951	テラコッタ	6.5 × 4.4 × 5.3	群馬県立館林美術館
22		ロレンスの顔	1951	ブロンズ	6.0 × 4.5 × 5.5	群馬県立館林美術館
23		男の顔	1951	ブロンズ	9.2 × 4.5 × 6.5	群馬県立館林美術館
24	掛井五郎	人間の問題研究III 四つの足	1985	ブロンズ	100.0 × 96.0 × 30.0	群馬県立館林美術館寄託



近現代の彫刻Ⅱ・木版画

平成25年7月20日(土)～9月23日(月・祝) 展示室4

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	風見鶏	1908 - 1932	銅板	47.0 × 54.4 × 6.0	群馬県立館林美術館
2		フクロウ	1923	ブロンズ	17.7 × 7.9 × 8.2	群馬県立館林美術館
3		眠っている雄鶏	1923	石膏	23.0 × 30.5 × 12.6	群馬県立館林美術館
4		シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
5	藤牧義夫	朝『新版画』第1号貼込)	1932(昭和7)年 6月20日刊	木版(単色)・ 紙	12.0 × 9.7	群馬県立館林美術館
6		島のちいさん(『新版画』第 9号貼込)	1933(昭和8)年 6月13日刊	木版(多色)・ 紙	14.4 × 9.4	群馬県立館林美術館
7		裏街(『新版画』第17号貼 込)	1935(昭和10)年 7月1日刊	木版(多色)・ 紙	15.0 × 12.0	群馬県立館林美術館
8		太陽と自画像	1929(昭和4)	木版(手彩 色)・紙	17.8 × 12.6	群馬県立館林美術館
9		しねま	1932(昭和7)	木版・紙	15.3 × 11.4	群馬県立館林美術館
10		城沼の冬	1933(昭和8)	木版(多色)・ 紙	11.2 × 14.0	群馬県立館林美術館
11		銀座スッポン料理屋案内	1933(昭和8)	木版(多色)・ 紙	17.8 × 12.6	群馬県立館林美術館
12	清宮質文	町外れ(『暗い夕日8』)	1972(昭和47)	木版・紙	16.6 × 22.0	群馬県立館林美術館寄託
13		壇の中の魚(『暗い夕日 10』)	1972(昭和47)	木版・紙	20.0 × 22.6	群馬県立館林美術館寄託
14		深夜の蠟燭	1974(昭和49)	木版・紙	18.0 × 15.2	群馬県立館林美術館寄託
15		夢の中へ	1983(昭和58)	木版・紙	15.5 × 6.8	群馬県立館林美術館寄託
16	柄澤 齊	なんじの革囊にわが涙を 《樹々の家族》より	2002～03(平成 14～15)年版制 作。2004(平成 16)年刷り	木版・紙	17.5 × 16.9 各19.0 × 22.0	群馬県立館林美術館寄託 群馬県立館林美術館
17		9.射光				
18		15.ホッホ				
19		16.影				
20		20.黒猫				
21		21.昔日				
22		43.環				
23		49.惑星たち				
24		51.待ち合わせ				



### 近現代の彫刻Ⅲ

平成25年10月12日(土)～平成26年1月13日(月・祝) 展示室1

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
2		シロクマ	1923 - 1933	合金	24.0 × 44.0 × 12.4	群馬県立館林美術館
3		シロクマ	1923 - 1933	ブロンズ	12.0 × 23.5 × 5.0	群馬県立館林美術館
3		ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館
4		雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	群馬県立館林美術館
4		ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
5		牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
6	フェルナン・レジェ	花々の中の鳥	1953	ブロンズ	43.0 × 35.0 × 5.0	群馬県立館林美術館
5	チャーナ・オルロフ	魚ノ噴水	1929	ブロンズ	40.7 × 40.5 × 13.3	群馬県立館林美術館
7	マックス・エルンスト	外壁のマスク	1948	ブロンズ	23.8 × 38.6 × 19.2	群馬県立館林美術館
8	ヘンリー・ムーア	馬の頭部	1982	ブロンズ	13.6 × 12.0 × 6.5	群馬県立館林美術館
6		後ろ足で立つ馬	1972	ブロンズ	20.0 × 9.0 × 7.0	群馬県立館林美術館
9	イサム・ノグチ	リス	1984 - 1988	ブロンズ板	61.0 × 48.0 × 39.0	群馬県立館林美術館
10	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951	スチール・ロッド	79.0 × 110.5 × 158.5	群馬県立館林美術館
11	フェルナンド・ボテロ	馬	1995	ブロンズ	50.4 × 38.0 × 26.6	群馬県立館林美術館
12	ブルーノ・ロメダ	純粹な大円	2003	ブロンズ	188.0 × 191.2 × 20.0	群馬県立館林美術館
13	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0 × 122.0 × 112.0	群馬県立館林美術館
14	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
15	鶴岡政男	ロレンスの顔	1951	ブロンズ	6.0 × 4.5 × 5.5	群馬県立館林美術館
16		男の顔	1951	ブロンズ	9.2 × 4.5 × 6.5	群馬県立館林美術館
17	土谷武	無題	1972	軟鋼	10.5 × 75.0 × 160.0	群馬県立館林美術館



近現代の彫刻IV－抽象的なかたち  
平成26年2月1日(土)～4月6日(日) 展示室 1

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	フランソワ・ポンポン	ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館
2		ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
3		牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
4		雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	群馬県立館林美術館
5		シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
6		大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
7	チャーナ・オルロフ	鳥	1924	ブロンズ	100.5 × 32.2 × 30.0	群馬県立館林美術館
8	ヘンリー・ムーア	母と子	1938	ブロンズ	11.4 × 7.4 × 5.7	群馬県立館林美術館
9		立っている少女	1981	ブロンズ	23.7 × 5.9 × 7.6	群馬県立館林美術館
10		小さな人体	1983	ブロンズ	14.2 × 6.0 × 5.4	群馬県立館林美術館
11	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951頃	スチール・ロッド	79.0 × 110.5 × 158.5	群馬県立館林美術館
12	ブルーノ・ロメダ	純粋な大円	2003	ブロンズ	188.0 × 191.2 × 20.0	群馬県立館林美術館
13	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
14	土谷武	無題	1972	軟鋼	105.0 × 75.0 × 160	群馬県立館林美術館
15	岡本健彦	風神・雷神	1993	油彩、鉛、ステンレスチール、カンヴァス、合板	183.0 × 200.0 × 398.0	群馬県立館林美術館寄託
16	和南城孝志	Archetypus空間への旅I	1979	ブロンズ	12.0 × 35.0 × 35.0	群馬県立館林美術館寄託
17		Archetypus円のイメージI	1981	ベルギー産黒大理石	20.0 × 50.0 × 50.0	群馬県立館林美術館寄託
18		Archetypus空間への旅II	1983	ブロンズ、錫	10.0 × 30.0 × 30.0	群馬県立館林美術館寄託



## D 彫刻家のアトリエ(別館) 展示記録

彫刻家のアトリエの展示ケース内にて資料(一部複製)を展示。展示ごとに配布用解説を作成した。

### 第1期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—展覧会への出品と批評」

4月27日(土)～6月30日(日)

展示資料:冊子・カタログ7冊の表紙、中ページ、写真、文献(複製)20点

ポンポンも他の作家と同様、公募展に応募したり、様々な美術団体に所属したりして、出品を重ねて成長していった。フランスの長い伝統をもつ美術公募展サロン・デ・ザルティスト・フランセをはじめ、故郷ディジョンの「芸術の友」展や、《シロクマ》を出品したサロン・ドートンスなどを、冊子やカタログをもとに取り上げ、生前のポンポンの重要な作品批評書も紹介した。

### 第2期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—新聞・雑誌の切り抜き」

7月20日(土)～9月23日(月・祝)

展示資料:新聞・雑誌の切り抜き(複製)23点

ポンポン関連資料の中に、ポンポン自身が集めていた新聞や雑誌の切り抜きが約90点ある。これらは、ポンポンが作品を制作する上で参照し、インスピレーションを得たであろうイメージソースや、ポンポンの関心事項を伝えてくれる。切り抜き資料と作品の比較を行い、様々な動物の資料から読み取れる情報を紹介した。

### 第3期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—《シロクマ》をめぐる」

10月12日(土)～1月13日(月・祝)

展示資料:手紙(複製)1点、写真(複製)2点、絵はがき(複製)1点、手帳抜粋(複製)8ページ、その他3点

ポンポンの《シロクマ》は、少し形の異なる6つのヴァリエーションがあり、素材は石膏や大理石、ブロンズ、磁器、またサイズもいくつかの種類で作られている。ここでは、当館で所蔵する資料の中から、《シロクマ》のセーヴル磁器製作所との契約書や、石彫り職人の《シロクマ》制作中の写真、動物園の絵はがきのシロクマ、ポンポンの会計帳の中の《シロクマ》に関する記載などを紹介した。

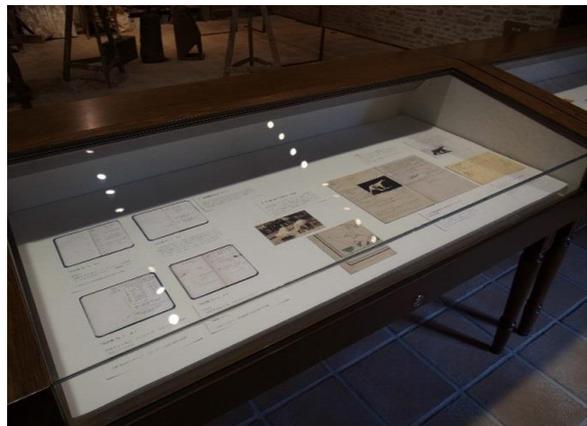
### 第4期

「フランソワ・ポンポン関連資料より—ポンポンと故郷」

2月1日(土)～4月6日(日)

展示資料:写真(複製)13点、手紙(複製)2点、印刷物(複製)1点

ポンポンが生まれ育ったブルゴーニュ地方の町ソーリュエーに関して、町の教会の写真や、家族や故郷の人々をモデルにした作品の写真などから紹介した。また、ポンポンの晩年にソーリュエーの町の人々によるバックアップや、死後に作られたポンポンを顕彰する作品や美術館創設についても触れた。



## E 入館者数一覧表

企画展示(特別展示を含む)

	有料観覧者							無料観覧者						入館者 合計
	個人		団体			有料 合計	小中 生	学校 団体	身体障 害者等	その他	無料 合計	観覧者 合計		
	一般	大高生	小計	一般	大高生								小計	
没後20年 森亮太展 4/1-4/7 6日	134	7	141	0	0	0	141	37	0	5	377	419	560	720
鹿島茂コレクション パル ビエ×ラブルール展ー アール・デコのモダンな イラストレーション 4/27-6/30 57日	4,050	198	4,248	98	227	325	4,573	238	197	197	3,833	4,465	9,038	11,843
藪内佐斗司展「やまとち から」 7/20-9/23 58日	4,831	232	5,063	35	20	55	5,118	2,239	101	246	6,912	9,498	14,616	17,787
山口晃展 画業ほぼ総 覧ーお絵描きから現在 まで 10/12-1/13 77日	13,853	519	14,372	241	96	337	14,709	689	1,198	468	8,508	10,863	25,572	30,143
シャガール 版画の世 界 2/1-3/31 49日 (展示は平成26年4月6 日まで継続)	3,498	138	3,636	41	0	41	3,677	265	160	191	2,765	3,381	7,058	8,839
企画展示 計 247日	26,366	1,094	27,460	415	343	758	28,218	3,468	1,656	1,107	22,395	28,626	56,844	69,332

入館者数は、観覧者数に施設利用者数、教育普及事業参加者数を加えた総数。  
平成25年度の総入館者数は、69,332人である。

A 講演会・アーティストトーク・パフォーマンス

1. ギャラリートーク・アーティストトーク・パフォーマンス・対談

開催日	名称	出演	会場	参加者数
5.26	鹿島茂氏によるギャラリートーク「アール・デコの挿絵本、あるいは絶滅した恐竜」	鹿島茂(フランス文学者、評論家、明治大学国際日本学部教授)	展示室	175
8.31	アーティストトーク&平成伎楽団パフォーマンス	籾内佐斗司(出品作家)、平成伎楽団「あめのうずめ組」(組長:堀之内真平)、フィリップ・エマール(ゲストパフォーマー)	展示室・講堂	349
11.10	山口晃トークショー+サイン会	山口晃(出品作家)	講堂	151
12.8	記念対談「山口晃と桐生」	山口晃、蓑崎昭子(桐生タイムス社記者)	講堂	128

2. サイン会

開催日	名称	出演	会場	参加者数
5.26	ギャラリートーク「アール・デコの挿絵本、あるいは絶滅した恐竜」終了後サイン会	鹿島茂(フランス文学者、評論家、明治大学国際日本学部教授)	エントランスホール	43
8.4	ワークショップ「ほとけさまのコスチュームを着てみよう」終了後サイン会	籾内佐斗司(出品作家)	エントランスホール	15
8.31	「アーティストトーク&平成伎楽団パフォーマンス」終了後サイン会	籾内佐斗司(出品作家)	エントランスホール	78
11.10	「山口晃トークショー」終了後サイン会	山口晃(出品作家)	エントランスホール	160
12.8	「記念対談「山口晃と桐生」」終了後サイン会	山口晃(出品作家)	エントランスホール	111
1.13	山口晃展 臨時サイン会	山口晃(出品作家)	エントランスホール	108



鹿島茂氏によるギャラリートーク「アール・デコの挿絵本、あるいは絶滅した恐竜」



籾内佐斗司氏アーティストトーク&平成伎楽団パフォーマンス



山口晃トークショー



記念対談「山口晃と桐生」



籾内佐斗司ワークショップ「ほとけさまのコスチュームを着てみよう」  
終了後サイン会



「山口晃トークショー」終了後サイン会

## B 作品解説会・ギャラリートーク・ポンポン・ツアー

### 1. 学芸員による作品解説会

開催日	展示の名称	解説者	会場	参加者数
5.2	鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展	松下和美	展示室	19
5.10	鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展★	松下和美、早矢仕智陽	展示室	1
5.14	鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展	松下和美	展示室	9
6.5	鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展	松下和美	展示室	25
6.23	鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展	松下和美	展示室	27
7.25	籾内佐斗司展「やまとぢから」	神尾玲子	展示室	34
7.30	籾内佐斗司展「やまとぢから」★	神尾玲子、早矢仕智陽	展示室	17
8.24	籾内佐斗司展「やまとぢから」	神尾玲子	展示室	13
9.8	籾内佐斗司展「やまとぢから」	神尾玲子	展示室	44
9.18	籾内佐斗司展「やまとぢから」	神尾玲子	展示室	26
10.22	山口晃展★	中島幸子、早矢仕智陽	展示室	5
10.24	山口晃展	中島幸子	展示室	47
11.16	山口晃展	神尾玲子	展示室	22
12.11	山口晃展	谷内克聡	展示室	60
12.26	山口晃展	松下和美	展示室	56
2.6	シャガール 版画の世界	神尾玲子	展示室	14
2.14	シャガール 版画の世界★	神尾玲子、澁澤友香莉	展示室	1
2.21	シャガール 版画の世界	谷内克聡	展示室	15
3.8	シャガール 版画の世界	谷内克聡	展示室	25
3.23	シャガール 版画の世界	谷内克聡	展示室	22
4.2	シャガール 版画の世界	谷内克聡	展示室	28

★印は「教職員のための模擬授業」

## 2. 子どもギャラリートーク

開催日	解説者	会場	参加者数
5.18	齋藤久美子	展示室	9
7.27	神尾玲子	展示室	3
8.10	神尾玲子	展示室	4
10.27	羽鳥あゆみ	展示室	3
11.23	齋藤久美子、澁澤友香莉	展示室	4
12.22	伊羅子典代、羽鳥あゆみ	展示室	17
1.11	齋藤久美子、澁澤友香莉	展示室	22

※参加者のあった回のみ記した。

## 3. ポンポン・ツアー

開催日	解説者	会場	参加者数
6.2	神尾玲子	彫刻家のアトリエ	46
9.15	松下和美	彫刻家のアトリエ	42
12.15	松下和美	彫刻家のアトリエ	52
2.23	神尾玲子	彫刻家のアトリエ	33



「シャガール 版画の世界」展作品解説会



簗内佐斗司展「やまとちから」作品解説会



子どもギャラリートーク



ポンポン・ツアー

## C ワークショップ

開催日	名称	講師	会場	参加者数
5.19	トーク&カフェ「クレールさんに聞く、フランス・ナントの町あれこれ」	亀山クレール(アトリエ「Petite Usine」講師、グラフィックデザイナー)	ワークショップ室	30
8.4	籾内佐斗司ワークショップ「ほとけさまのコスチュームを着てみよう」	籾内佐斗司(彫刻家、東京藝術大学大学院文化財保存学教授)	ワークショップ室 ほか	27
8.25	群馬県立女子大学奥西ゼミワークショップ「粘土で自分だけの守り神を作ろう！」	群馬県立女子大学奥西ゼミ学生	エントランスホール	115
3.1	銅版画技法体験ワークショップ「アクアチントってなんだろう？」	長野順子(銅版画家)	ワークショップ室	20

### 1. トーク&カフェ「クレールさんに聞く、フランス・ナントの町あれこれ」

バルビエ、ラブルールがフランス西部の町ナントの生まれであったことにちなみ、ナント出身の亀山クレール氏を講師に迎え、ナントの歴史や町の様子について話を聞き、講師自家製のナント伝統のケーキを食して講師との交流を楽しんだ。

### 2. 籾内佐斗司ワークショップ「ほとけさまのコスチュームを着てみよう」

籾内佐斗司氏自作のほとけの衣装を身に着付けることによって、仏像の造形を理解することを目的に開催。籾内氏が指導する東京藝術大学大学院の学生が助手となり、参加者のうち希望者4人に着付けを行った。布一枚をまくだけの如来や、きらびやかな甲冑の天部の衣装を身につけ、ほとけになりきったほか、菩薩姿のせんとくんも登場した。

### 3. 群馬県立女子大学奥西ゼミワークショップ「粘土で自分だけの守り神を作ろう！」

群馬県立女子大奥西ゼミの生徒たちと初めて共同企画した連携事業。はにわ粘土を用い、自分で考えた守り神を制作。完成後、エントランスホールにブルーシートで特設した池の蓮の葉の上に置いて記念撮影をした。「にじのかみさま」「かぶとかみさま」など思い思いの神さまが出来上がった。親子での参加も多く、同じテーマで神さまを作る姿もみられた。

### 4. 銅版画技法体験ワークショップ「アクアチントってなんだろう？」

銅版画技法のなかでも学ぶ機会の少ないアクアチントについて、銅版画家の長野順子氏より技法を学んだ。銅板に黒ニスで絵を描き、松ヤニを均一にふりかけて火であぶり定着させる。腐食後、液で洗い流して版を完成させ、湿らせた紙をプレス機にかけて刷り上げると、やわらかい描線と、暗闇に雪が降るような淡い背景が生まれた。冒頭、展示室に移動し、開催中のシャガール版画の魅力について、技法という観点から長野氏に語っていただいた。



トーク&カフェ「クレールさんに聞く、フランス・ナントの町あれこれ」



籾内佐斗司ワークショップ「ほとけさまのコスチュームを着てみよう」



群馬県立女子大学奥西ゼミワークショップ「粘土で自分だけの守り神を作ろう！」



銅版画技法体験ワークショップ「アクアチントってなんだろう？」

## D 創作体験コーナー みんなのアトリエ「多版木版画摺り体験」

みんなのアトリエは、夏季企画展会期中の事業で、参加者に簡単な創作体験を提供している。平成21年度より、同会期中に「館林邑楽地区小学生木版画展」の開催、所蔵木版画作品の展示などを行っていることから、多版木版画摺り体験を内容としている。今回は講師に、館林市内で絵画造形教室を開いている造形美術作家の亀山知英氏、渋川市在住で版画家の高橋房雄氏を招いた。両作家の作品を通して、多版による色の重なりやコマ版の面白さを味わった。子どもから大人まで楽しく学べる簡単な摺り体験が実現できた。

開催日	講師	会場	参加者数
7.25	亀山知英	ワークショップ室	51
8.1	亀山知英	ワークショップ室	27
8.8	亀山知英	ワークショップ室	37
8.15	高橋房雄	ワークショップ室	41
8.22	高橋房雄	ワークショップ室	35
8.29	高橋房雄	ワークショップ室	25
			計 216



みんなのアトリエ「多版木版画摺り体験」



みんなのアトリエ「多版木版画摺り体験」

## E たてび☆びじゅつ部

開催日	名称	会場	参加者数
7.28	「匂い袋をデコレーション」	エントランスホール	57
8.10	「匂い袋をデコレーション」	エントランスホール	50
9.8	「匂い袋をデコレーション」	エントランスホール	76



たてび☆びじゅつ部「匂い袋をデコレーション」



たてび☆びじゅつ部「匂い袋をデコレーション」

## F たてび土曜レクチャー

### たてび土曜レクチャー「絵画と音楽」

開催日	名称	講師	会場	参加者数
3.15	シャガールとドビュッシー	谷内克聡、澤田まゆみ(ピアニスト)	講堂	94
3.22	シャガールとラヴェル	谷内克聡、藤川温子(ピアニスト)	講堂	79



たてび土曜レクチャー「シャガールとドビュッシー」



たてび土曜レクチャー「シャガールとラヴェル」

## G コンサート

開催日	名称	会場	参加者数
4.29	鹿島茂コレクション バルビエ×ラブルール展 ヴァイオリン・コンサート	エントランスホール	320
3.16	シャガール展 記念コンサート「夢の花束」	エントランスホール	225



鹿島茂コレクション パルピエ×ラブルール展 ヴァイオリン・コンサート



シャガール展 記念コンサート「夢の花束」

## H 他団体への協力

### 1. 西邑楽高等学校主催講義

開催日	名称	講師	会場	参加者数
1.10	山口晃特別講義	山口晃	講堂	123 (うち一般参加32)



山口晃特別講義

### 2. 出前なんでも講座

開催日	名称	講師	会場	参加者数
6.13	館林美術館の楽しみ方(太田市毛里田行政センター)	早矢仕智陽、澁澤友香莉	太田市毛里田行政センター	58
9.6	美術展の主題から観る作品の鑑賞法(大泉町公民館)	神尾玲子	大泉町公民館	31

## I 学校連携その他

学校との連携活動として、学校からの要望に可能な限り応え、研究授業の受け入れや、学校の授業における連携などを行った。また、解説を希望する団体については、観覧前に概要説明を行った。

### 1. 学校との連携事業

#### (1)連携授業等

開催日	名称	学校名、学年	担当	会場	参加者数
5.1	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校3年生	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	研修室	37
5.2	校外学習(美術館見学)	加須市立加須小学校1年生	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	講堂	104
5.22	概要解説・見学	栃木県立足利工業高校・産業デザイン科	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	講堂・展示室	120
6.5	学校訪問鑑賞授業①	明和町立明和東小学校	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	明和町立明和東小学校	31
6.6	美術館見学	明和町立明和東小学校	伊羅子典代	美術館	29
6.6	美術館見学	群馬県立豊学校美術部	早矢仕智陽	美術館	32
6.11	職場体験	白鷗大学足利中学校	早矢仕智陽	美術館	4
6.12	職場体験	白鷗大学足利中学校	早矢仕智陽	美術館	4
6.13	職場体験	白鷗大学足利中学校	伊羅子典代	美術館	4
7.26	美術館見学	群馬県立太田高等養護学校美術部	早矢仕智陽	美術館	10
8.1	職場見学	館林市立第二中学校	早矢仕智陽	美術館	1
8.2	職場見学	館林市立第一中学校	早矢仕智陽	美術館	3
8.1	職場見学	館林市立第二中学校	早矢仕智陽	美術館	4
8.16	高校生による夏休み宿題相談室	群馬県立西邑楽高等学校	早矢仕智陽	ワークショップ室	43
8.17	高校生による夏休み宿題相談室	群馬県立西邑楽高等学校	早矢仕智陽	ワークショップ室	43
8.17	高校生による美術館ミニコンサート	群馬県立西邑楽高等学校	早矢仕智陽	エントランスホール	
8.18	高校生による夏休み宿題相談室	群馬県立西邑楽高等学校	早矢仕智陽	ワークショップ室	38
8.27	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校美術部	神尾玲子	美術館	16
8.28	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校2年生	早矢仕智陽	美術館	30
8.29	美術館見学	館林市立多々良中学校	早矢仕智陽	美術館	11
9.10	学校訪問鑑賞授業②	館林市立第二小学校3年生	早矢仕智陽	館林市立第二小学校	27
9.11	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校3年生	早矢仕智陽	館林市立第二小学校	27
9.12	職場体験	館林市立第三中学校2年生	早矢仕智陽	美術館	3
9.13	職場体験	館林市立第三中学校2年生	早矢仕智陽	美術館	3
9.13	学校訪問鑑賞授業③	館林市立第二小学校4年生	早矢仕智陽	館林市立第二小学校	74
10.13	美術館見学	群馬県立県立太田フレックス高校	早矢仕智陽	美術館	71
10.17	職場体験	邑楽町立邑楽中学校2年生	早矢仕智陽	美術館	1
10.18	職場体験	邑楽町立邑楽中学校2年生	早矢仕智陽、 齋藤久美子、 澁澤友香莉	美術館	1
10.22	美術館見学	桐生市立広沢小学校	澁澤友香莉	美術館	116
10.30	美術館見学	前橋市立山王小学校	齋藤久美子	美術館	91
10.30	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校サービス総合科	早矢仕智陽	美術館	10
11.1	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校1年生	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	美術館	20
11.6	学校訪問鑑賞授業④	館林市立第八小学校3年生	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	館林市立第八小学校	64
11.7	学校訪問鑑賞授業⑤	館林市立第八小学校4年生	早矢仕智陽	館林市立第八小学校	111
11.8	学校訪問鑑賞授業	館林市立第八小学校3年生	早矢仕智陽、 齋藤久美子、 澁澤友香莉	館林市立第八小学校	30
11.12	美術館見学	館林市立第八小学校4年生	早矢仕智陽、 齋藤久美子	美術館	114
11.13	美術館見学(生活科)	館林市立第八小学校2年生	早矢仕智陽、 齋藤久美子	美術館	92

11.13	美術館見学	みどり市立大間々南小学校5年生	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	美術館	38
11.14	美術館見学	館林市立第八小学校3年生	早矢仕智陽	美術館	93
11.14	職場体験	館林市立第二中学校	早矢仕智陽	美術館	1
11.15	職場体験	館林市立第二中学校	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	美術館	2
11.15	美術館見学	館林市立第八小学校1年生	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	美術館	108
11.19	美術館見学	前橋市立二之宮小学校5年生	早矢仕智陽、澁澤友香莉	美術館	38
11.20	学校訪問鑑賞授業⑥	館林市立第八小学校2年生	神尾玲子、齋藤久美子	館林市立第八小学校	92
11.20	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校1年生	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	美術館	41
11.22	美術館見学	館林市立第八小学校5年生	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	美術館	112
11.29	美術館見学	館林市立第八小学校2年生	早矢仕智陽、澁澤友香莉	美術館	92
12.10	学校訪問鑑賞授業⑦	館林市立第二小学校1年生	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	館林市立第二小学校	26
12.10	美術館見学	館林市立多々良中学校	早矢仕智陽、澁澤友香莉	美術館	96
12.11	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校1年生	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	館林市立第二小学校	50
12.17	美術館見学	館林市立多々良中学校	早矢仕智陽	美術館	66
12.26	美術館見学	太田市立藪塚本町中学校美術部	早矢仕智陽	美術館	13
1.8	美術館見学	館林市立多々良中学校	早矢仕智陽	美術館	11
1.10	美術館見学	群馬県立西邑楽高等学校	早矢仕智陽	美術館	91
1.16	学校訪問鑑賞授業⑧	館林市立第二小学校6年生	早矢仕智陽	館林市立第二小学校	68
1.22	職場体験	足利市立愛宕台中学校	早矢仕智陽	美術館	2
2.5	美術館見学	太田市教育研究所適応指導教室	早矢仕智陽、澁澤友香莉	美術館	7
2.12	学校訪問鑑賞授業⑨	館林市立第一小学校6年生	早矢仕智陽、澁澤友香莉	館林市立第一小学校	108
2.14	学校訪問鑑賞授業⑩	館林市立第二小学校2年生	早矢仕智陽	館林市立第二小学校	48
2.18	学校訪問鑑賞授業⑪	館林市立第二小学校5年生(1)	早矢仕智陽、澁澤友香莉	館林市立第二小学校	68
2.20	学校訪問鑑賞授業⑫	古河市立古河第一小学校	早矢仕智陽、齋藤久美子、澁澤友香莉	古河市立古河第一小学校	56
2.21	美術館見学	古河市立古河第一小学校5年生	早矢仕智陽、澁澤友香莉	美術館	56
2.25	学校訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校5年生(2)	早矢仕智陽	館林市立第二小学校	64
3.5	学校訪問鑑賞授業⑬	館林市立第二小学校2年生	早矢仕智陽、澁澤友香莉	館林市立第二小学校	48

## (2)団体解説のみを実施

開催日	学校名	担当	会場	参加者数
4.30	中央工学校 建築設計科	早矢仕智陽	講堂	58
5.3	笠懸中学校美術部	松下和美	研修室	17
8.9	常磐高等学校美術部	松下和美	エントランスホール	4
8.12	玉村南中学校美術部	伊羅子典代	研修室	15
9.3	東北生活文化大学	早矢仕智陽	研修室	25

## (3)主任会、研修会の実施、参加

開催日	名称	学校名、組織名	担当	会場	参加者数
5.16	主任会(図工部会)	館林市小学校	早矢仕智陽	美術館	7

6.10	主任会(美術部会)	館林市中学校	早矢仕智陽	館林市立第二中学校	12
6.25	主任会(図工部会)	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	美術館	17
7.30	実技講習会	邑楽郡小学校	早矢仕智陽、 澁澤友香莉	美術館	42
8.7	研修講座	佐野市立葛生南小学校職員研修	羽鳥あゆみ	美術館	5
8.7	校内研修「小学校図画工 作科の現状と課題」	明和町立明和西小学校	早矢仕智陽	明和町立明和西小学校	23
8.9	技術講習会	館林市小学校図工部会	早矢仕智陽、 神尾玲子	美術館	7
8.20	校内研修	明和町立明和東小学校	早矢仕智陽	美術館	13
8.21	研修講座	県内小学校	神尾玲子、 早矢仕智陽、 澁澤友香莉	美術館	7
10.11	主任会(図工部会)	館林市小学校	早矢仕智陽	館林市立第一小学校	18
11.22	主任会(図工部会)	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	明和町ふるさと産業文化館	3
1.17	主任会(図工部会)	館林市小学校	早矢仕智陽、 羽鳥あゆみ	館林市立第一小学校	11
1.24	高校3年目経験者研修	県内高校	早矢仕智陽	県総合教育センター	12
2.13	小・中学校5年目経験者研 修	県内小中学校	早矢仕智陽	県総合教育センター	17
2.14	主任会(図工部会)	邑楽郡小学校	早矢仕智陽	大泉町立南小学校	17

## 2. 団体観覧者への解説

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	4	6	2	2	3	4	9	3	1	0	2	36
人数	0	147	144	77	48	80	184	212	69	27	0	46	1034



学校訪問鑑賞授業



美術館見学



高校生による夏休み宿題相談室



高校生による美術館ミニコンサート

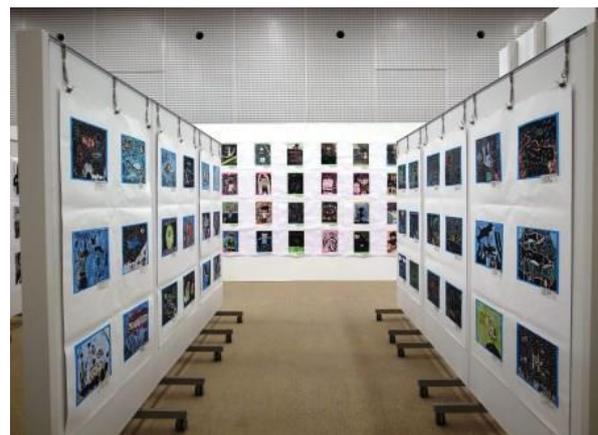
## J 地域に開かれた美術館づくり

館林美術館の施設と機能を活かして、地区小学生の健全育成、芸術創作活動の振興、美術鑑賞力の向上を図るとともに、地域に開かれた美術館づくりを推進するために、館林が生んだ木版画家である藤牧義夫にちなみ、館林市及び邑楽郡5町の各市町及び各市町教育委員会の協力を得て、「第5回 日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念館林邑楽地区小学生木版画展」を開催した。会場は講堂を使用し、参加小学校全27校を6会期に分けて展示した。31日間の全会期中に、合計3,178人が観覧した。

会期	開催期間	参加校	入室者数
第1期	7.20-7.25	館林市立第五小学校、館林市立第六小学校、館林市立第七小学校、館林市立第八小学校、館林市立第九小学校	509
第2期	7.27-8.1	館林市立第十小学校、館林市立美園小学校、板倉町立東小学校、板倉町立西小学校、板倉町立南小学校、板倉町立北小学校	428
第3期	8.3-8.8	明和町立明和東小学校、明和町立明和西小学校、大泉町立南小学校、大泉町立北小学校	433
第4期	8.10-8.15	大泉町立西小学校、大泉町立東小学校、千代田町立西小学校、千代田町立東小学校	635
第5期	8.17-8.22	邑楽町立中野小学校、邑楽町立高島小学校、邑楽町立長柄小学校、邑楽町立中野東小学校	676
第6期	8.24-8.29	館林市立第一小学校、館林市立第二小学校、館林市立第三小学校、館林市立第四小学校	497



ポスター



展示会場

◎主要関連記事(長文記事は末尾に\*)

小学生木版画展

[新聞等]

・上毛新聞

7.21

「児童の木版画1700点 館林」

8.11

「館林美術館「日本を代表する木版画家『藤牧義夫』記念 館林邑楽地区小学生木版画展」

・上毛新聞シャトル

8.6、8.27

「館林邑楽地区小学生木版画展」〈展覧会〉

[定期刊行物]

博物館研究

541号

「第5回日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念 館林邑楽地区小学生木版画展」〈普及活動〉

教育普及事業・その他

[新聞等]

・上毛新聞

4.13

「五感で楽しむ場に 県立館林美術館長 佐々木正直さん」\*

7.26

「色重ねアート楽しむ 館林美術館 木版画を体験」

8.17

「高校生が宿題お手伝い 館林 図面やポスター描く」\*

2.25

「愛の歌にうっとり あみさんがシャンソン 館林」

・上毛新聞シャトル

6.7

「県立館林美術館 ポンポン息遣いを 彫刻家のアトリエ探訪 ツアーで作品、資料鑑賞」\*

7.8

「創作体験のボランティア 館林美術館」

8.5

「仏さまになりきり せんとくんデザイン 簗内さんの衣装試着(ワークショップ)」\*

8.16

「簗内佐斗司展 アーティスト・トーク&平成伎楽団パフォーマンス」

8.21

「息の合った音色響く 西邑楽高生 美術館でコンサート」

8.23

「アーティストトーク&平成伎楽団パフォーマンス」〈気になる情報 ばれっと〉

2.12

「人間国宝テーマ館長が講演 来月、館林美術館」

・朝日ぐんま

7.19

「高校生による夏休み宿題教室」

・夕刊 桐生タイムス

6.28

「掛井五郎さん自作と再会 館林美術館に展示中」\*

・たてばやし 朝日ニュース

7.31

「森さんの彫刻作品 子ども科学館広場に設置」\*

・読売新聞

8.9

「旅立ち願う石彫 早世彫刻家の作品 向井記念館に設置」\*

[定期刊行物]

・ヴィアン

11月号

「群馬県立館林美術館」〈美術の魅力を知る。〉

・おでかけ群馬 2014-2015

2014年

「広大な自然と調和 近代アート美術館」〈群馬のおでかけネタ200連発〉

・決定版 東京アートガイド

2013年

「群馬県立館林美術館」〈エリア別アートのスポット完全ガイド〉

・d design travel TOYAMA

10.15

「群馬 群馬県立館林美術館」〈47 REASONS TO TRAVEL IN JAPAN〉

・保存版 日本の美術館ベスト250完全案内

2014年

「群馬県立館林美術館」〈日本の美術館250ガイド〉

・ゆうゆう

2月号

「群馬県立館林美術館」〈とじ込み付録 ときめき 美術館ガイド〉

・raifu

9月号

「県立館林美術館」

[その他]

・群馬県立女子大学文学部美術史学科アートマネジメントゼミ美術館連携事業記録

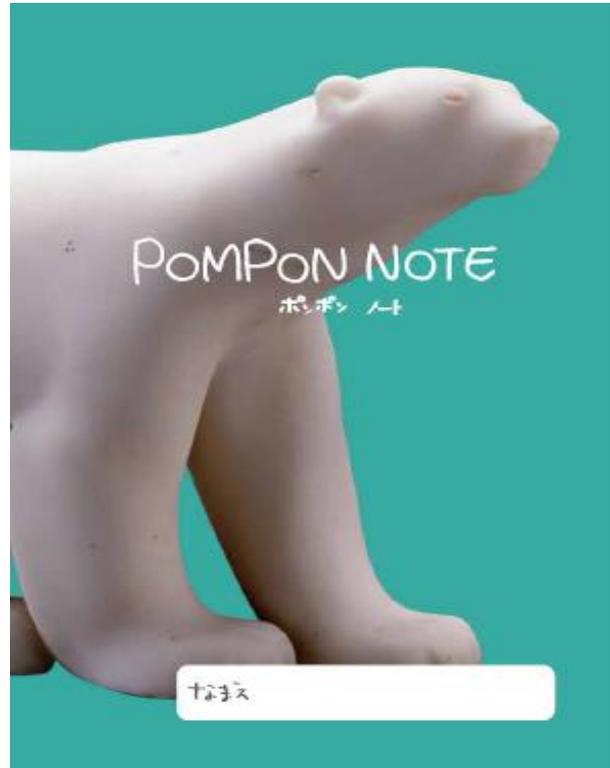
3.10

「群馬県立館林美術館 2013年8月25日(日) 自分だけの守り神を作ろう！」

◎群馬県立館林美術館平成26年度事業案内  
B4判変形4つ折り  
平成26年3月発行  
発行部数 25,000部



◎ポンポン・ノート  
A5判  
平成26年3月発行  
発行部数 5,000部



## L ボランティア

夏季の事業、「みんなのアトリエ 多版木版画摺り体験」の開催時に、以下のとおりボランティアを募集した。

期日	名称	人数
7.25、8.1、 8.8、8.15、 8.22、8.29	「みんなのアトリエ」制作補助ボランティア	34
7.28、8.10、	「たてび☆びじゅつ部」制作補助ボランティア	13

## M 友の会(群馬県立館林美術館友の会)

### 1. 運営会議

- (1)総会(6.22)
- (2)理事会(6.22)
- (3)運営委員会(3回 5.24、6.5、8.7、11.2)  
事業の企画運営等具体的事項の協議

### 2. 美術館協力支援事業

- (1)ミュージアムショップの運営  
展覧会図録、絵はがき、美術関係書籍その他の展示販売をとおして来館者へのサービスに努めた。
- (2)レセプションの開催(4.29、10.12)  
美術館との共催

### 3. 会員対象事業

- (1)美術館情報の提供(5.22、7.5、9.4、11.27、1.23)  
展覧会や美術講座等の広報資料や、友の会からのお知らせ等を随時郵送し、会員の美術鑑賞への参加と、会員による周辺の人々への広報、普及活動の促進を図った。
- (2)コンサートの開催(10.18、2.14)  
石戸麻季子(ヴァイオリン)によるコンサートを開催した。参加者81名(10.18)  
あみ(シャンソン)によるバレンタインコンサートを開催した。参加者91名(2.14)
- (3)ミュージアム・ツアーの開催(9.11)  
美術の鑑賞と会員相互の親睦を深めた。参加者45名  
訪問先 諸橋近代美術館 福島県立美術館
- (4)館長レクチャー(3.9)  
『伝統工芸の保護—人間国宝の話—』参加者27名

A 美術作品

1. 作品収蔵状況 平成26年3月31日現在

作家区分 収蔵方法 部門	県内作家		国内作家			外国作家			小計	総計
	購入	寄贈	小計	購入	寄贈	小計	購入	寄贈		
日本画	4	9	13	1	1	2	0	0	0	15
油彩その他	7	0	7	18	8	26	6	0	6	39
水彩・素描	10	6	16	3	0	3	8	0	8	27
版画	22	0	22	289	252	541	52	0	52	615
写真	0	0	0	60	7	67	12	0	12	79
彫刻	5	8	13	4	5	9	125	0	125	147
染織・工芸	5	3	8	3	0	3	4	0	4	15
計	53	26	79	378	273	651	207	0	207	937

2. 平成25年度 収蔵作品

平成25年度においては、日本画1点(寄贈1点)、油彩その他4点(寄贈4点)、彫刻9点(寄贈9点)の計14点を新たに収蔵した。以下、区分ごとに50音順に配列している。

各作品データは、以下の順に記す。

- ・作者名(生没年)
- ・作品名
- ・制作年(日本人作家の場合は元号も付す)
- ・技法・材質(・形状)
- ・寸法(平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行、単位はcm)
- ・サイン、年記、その他の記載事項
- ・初発表展覧会および受賞記録
- ・受入種別
- ・受入番号

< 日本画 >

日高理恵子 (1958～)  
 HIDAKA Rieko  
 百日紅  
 1986(昭和61)年  
 岩絵の具・麻紙  
 139.0×168.0  
 裏面のラベルに記載「百日紅 一九八六年 日高理恵子」  
 個展(みゆき画廊、1987年)  
 寄贈  
 924



< 油彩その他 >

伊庭靖子 (1967~)  
IBA Yasuko  
Untitled  
1995(平成7)年  
油彩・カンヴァス  
162.0×123.0  
裏面左下に署名「Yasuko Iba '95」  
伊庭靖子-イマージュの測定術  
(ギャラリー α M、1997年)  
大熊久子氏、馬淵悟氏寄贈  
925



伊庭靖子 (1967~)  
IBA Yasuko  
Untitled  
1995(平成7)年  
油彩・カンヴァス  
162.0×123.0  
こもれび展(水戸芸術館現代美術  
ギャラリー、2003年)  
大熊久子氏、馬淵悟氏寄贈  
926



伊庭靖子 (1967~)  
IBA Yasuko  
Untitled  
2001(平成13)年  
油彩・カンヴァス  
180.0×180.0  
裏面右下に署名「Yasuko Iba '01」  
伊庭靖子 Oil Paintings 2000-2001  
(ART SPACE・NIJI、版画工房ノマル  
エディション、2001年)  
大熊久子氏、馬淵悟氏寄贈  
927



伊庭靖子 (1967~)  
IBA Yasuko  
Untitled  
2003(平成15)年  
油彩・カンヴァス  
120.0×160.0  
裏面右下に署名「Yasuko Iba '03」  
大熊久子氏、馬淵悟氏寄贈  
928



< 彫刻 >

森亮太 (1952~1993)  
MORI Ryota  
石の鼓動  
1980(昭和55)年  
黒大理石  
8.0×19.5×14.0  
森猛氏寄贈  
932



森亮太 (1952~1993)  
MORI Ryota  
二つの突起  
1982(昭和57)年  
黒御影石  
27.0×55.0×17.0  
飯田秀夫氏寄贈  
933



森亮太 (1952～1993)  
MORI Ryota  
風の扉  
1987(昭和62)年  
黒御影石  
101.0×34.5×31.0  
森とみ子氏寄贈  
934



森亮太 (1952～1993)  
MORI Ryota  
座標  
1988(昭和63)年  
黒御影石  
27.5×27.0×14.0  
森とみ子氏寄贈  
935



森亮太 (1952～1993)  
MORI Ryota  
波  
1990(平成2)年  
黒御影石  
33.0×51.0×8.0  
柴田留理子氏寄贈  
936



藪内佐斗司 (1953～)  
YABUUCHI Satoshi  
縁結び童子  
2013(平成25)年  
ブロンズ、彩色  
13.0×8.0×8.0  
裏面前方に記載「佐 EA 4/16」  
作家寄贈  
937



和南城孝志 (1949～2003)  
WANAJO Takashi  
Archetypus 空間への旅 I  
1979(昭和54)年  
ブロンズ  
12.0×35.0×35.0  
側面にサイン「T.Wanajo 1979」  
ダンテ国際彫刻ビエンナーレ(ラヴェンナ、イタリア、1979年)、金賞受賞  
和南城洋子氏寄贈  
929



和南城孝志 (1949～2003)  
WANAJO Takashi  
Archetypus 円のイメージ I  
1981(昭和56)年  
ベルギー産黒大理石  
20.0×50.0×50.0  
和南城洋子氏寄贈  
930



---

和南城孝志 (1949~2003)  
WANAJO Takashi  
Archetypus 空間への旅 II  
1983 (昭和58)年  
ブロンズ、錫  
10.0×30.0×30.0cm  
和南城洋子氏寄贈  
931



### 3. 平成25年度 寄託作品

作者名	作品名 (* 年度途中で寄託解除、他は寄託継続)	制作年	技法・材質	寸法		
				(高さ)	× 幅	× 奥行cm)
三輪途道	YUUKO	1996-2004	檜、漆、膠、白土、顔料	153.0	× 48.0	× 25.0
三輪途道	野辺の王様	1998	檜、漆、膠、白土、顔料	125.0	× 32.0	× 40.0
三輪途道	温度-H.MIWA-	1999	檜、漆、膠、白土、顔料	99.0	× 57.0	× 37.0
三輪途道	縄文からの道	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	12.0	× 25.0	× 16.0
三輪途道	TOKYO-2000.1.12.Age60-	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	102.0	× 50.0	× 28.0
三輪途道	猿を待ってた日	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	23.0	× 16.5	× 23.0
三輪途道	下仁田-おじい	2003	檜、漆、膠、顔料	79.0	× 59.0	× 64.0
三輪途道	下仁田-おばあ	2003	檜、漆、膠、顔料	83.0	× 50.0	× 56.0
三輪途道	おじいの宝Ⅱ(金歯の位置違い)	2003	檜、漆、金箔	3.0	× 7.5	× 5.0
三輪途道	猫の抜け道	2005	檜、漆、膠、顔料	25.0	× 68.0	× 14.0
三輪途道	発電所のなめくじ	2005	檜、漆、膠、白土、顔料 (5点組)	4.0	× 6.0	× 14.0
				5.0	× 8.0	× 20.0
				6.0	× 9.0	× 28.0
				13.0	× 10.0	× 18.0
				13.0	× 10.0	× 18.0
三輪途道	父子像	2007	檜、漆、膠、顔料	175.0	× 42.0	× 42.0
三輪途道	乳母と私Ⅱ	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	90.0	× 58.0	× 71.0
三輪途道	父子像Ⅱ	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	159.0	× 99.0	× 8.0
松井冬子	同世代のエジプト人	2007	鉛筆・紙	43.7	× 36.7	
松井冬子	トメス4世	2007	鉛筆・紙	36.2	× 44.1	
カンノサカン	無題	2007	ウレタン、アクリル・パネル に貼られたカンヴァス	30.0	× 30.0	
大竹利絵子	へび	2006	木	31.0	× 21.5	× 17.0
川島秀明	stare	2008	アクリル・キャンバス	50.0	× 72.7	
日野之彦	パーマ	2007	鉛筆・紙	103.5	× 72.5	
日野之彦	縞の服	2008	鉛筆・紙	101.6	× 50.4	
会田誠	トラウマンボーイ02	2007	パネル、紙、色鉛筆、水彩 絵具、油性マーカー	36.5	× 51.5	
会田誠&加藤愛	愛ちゃん盆栽(ほおずき)小料理屋にて	2008	ラムダプリント	86.8	× 125.0	
Chim Pom	イケてる人達みたい02	2008	Cプリント、DVD	31.0	× 31.0	
加藤泉	無題	2009	油彩・カンヴァス	33.3	× 24.0	
町田久美	ひとり	2003	雲肌麻紙・墨	130.0	× 97.0	
森田恒友	漁村図	未詳	紙本墨画・軸	94.5	× 90.0	
岸浪百草居	画卷(魚など)	未詳	紙本著色・卷子	24.0	× 625.9	
津田青楓	山高水長画卷	1937	紙本著色・卷子	30.2	× 538.2	
和南城孝志	Archetypus円のイメージⅠ*	1981	大理石	20.0	× 50.0	× 50.0
和南城孝志	Archetypus空間への旅Ⅰ*	1979	ブロンズ	12.0	× 35.0	× 35.0
和南城孝志	Archetypus空間への旅Ⅱ*	1983	ブロンズ	10.0	× 30.0	× 30.0
山口啓介	花の心臓 / 蕊柱	2003	油彩・カンヴァス	270.0	× 181.0	
清宮質文	蝶	1963	木版・紙	24.6	× 22.1	
掛井五郎	人間の問題研究Ⅲ 四つの足	1985	ブロンズ	100.0	× 96.0	× 30.0
岡本健彦	風神・雷神	1993	油彩、鉛、ステンレススチール、 カンヴァス、合板	183.0	× 200.0	× 398.0
日野之彦	見つめ合い	2011	油彩・カンヴァス	91.0	× 91.0	
日野之彦	二人は走る	2010	油彩・カンヴァス	259.1	× 193.9	
アルブレヒト・デューラー	書斎の聖ヒエロニムス	1514	エンブレイヴィング・紙	24.4	× 18.8	
西村盛雄	甘露の雨 マナ9	2002	木	37.0	× 220.0	× 220.0
勅使河原蒼風	わかれ	1963	鉄	120.0	× 33.0	× 32.5
勅使河原蒼風	群れ	1953	鉄	103.0	× 184.0	× 57.0
勅使河原蒼風	ビーナス	1957	木	68.0	× 65.0	× 54.0
勅使河原蒼風	クビ	1962	木	129.5	× 62.5	× 30.0
勅使河原蒼風	クサナギ	1967	銅	252.5	× 64.5	× 50.0
勅使河原蒼風	題不詳	不詳	銅	44.0	× 53.0	× 48.0
勅使河原蒼風	ミコ	1967	銅	96.0	× 49.0	× 25.0
山口啓介	花の心臓 / 炭素原子モデル	2003	顔料、樹脂、自家製樹脂、 アクリル・カンヴァス	270.0	× 181.0	
中平四郎	讀賣	1924	木彫	60.0	× 34.0	× 25.0
伊庭靖子	Untitled *	1995	油彩・カンヴァス	162.0	× 123.0	
伊庭靖子	Untitled *	1995	油彩・カンヴァス	162.0	× 123.0	
伊庭靖子	Untitled *	2001	油彩・カンヴァス	180.0	× 180.0	
伊庭靖子	Untitled *	2003	油彩・カンヴァス	120.0	× 160.0	
藤牧義夫	関連資料 全21点					
清宮質文	葦	1958	木版・紙	21.7	× 18.8	
清宮質文	むかしのはなし	1958	木版・紙	8.3	× 16.3	
清宮質文	古い日	1960	木版・紙	17.2	× 14.2	
清宮質文	幼きもの	1963	木版・紙	24.1	× 21.3	
清宮質文	九月の海辺	1970	木版・紙	13.3	× 23.3	
清宮質文	北辺の小屋	1971	ガラス絵	16.6	× 22.0	
清宮質文	暗い夕日(暗い夕日1)	1972	木版・紙	21.0	× 19.2	
清宮質文	冬(暗い夕日2)	1972	木版・紙	23.0	× 21.8	
清宮質文	トンネルの出口(暗い夕日3)	1972	木版・紙	23.4	× 20.1	
清宮質文	虜囚の窓(暗い夕日4)	1972	木版・紙	24.3	× 20.0	
清宮質文	夕方の静物(暗い夕日5)	1972	木版・紙	23.0	× 21.9	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (高さ × 幅 × 奥行cm)
清宮質文	窓のカンテラ (暗い夕日6)	1972	木版・紙	24.2 × 15.0
清宮質文	入日 (暗い夕日7)	1972	木版・紙	16.2 × 25.8
清宮質文	町外れ (暗い夕日8)	1972	木版・紙	16.6 × 22.0
清宮質文	夕日の静物 (暗い夕日9)	1972	木版・紙	13.7 × 22.2
清宮質文	壇の中の魚 (暗い夕日10)	1972	木版・紙	20.0 × 22.6
清宮質文	深夜の蠟燭	1974	木版・紙	18.0 × 15.2
清宮質文	星占い ～去りゆく凶星～	1975	木版・紙	15.2 × 18.0
清宮質文	秋の夕日	1976	木版・紙	16.2 × 14.1
清宮質文	作品	1981	水彩・紙	10.0 × 16.0
清宮質文	黒夜の鳥	1982	木版・紙	12.5 × 14.0
清宮質文	われむかしの日にしえの年をおもえり	1982	木版・紙	15.2 × 13.0
清宮質文	夢の中へ	1983	木版・紙	15.5 × 6.8
清宮質文	失題 (モノタイプ)	1983	モノタイプ・紙	20.8 × 16.2
清宮質文	失題 (モノタイプ)	1983	モノタイプ・紙	19.3 × 11.2
清宮質文	失題 (モノタイプ)	1983	モノタイプ・紙	21.6 × 16.2
清宮質文	夕日のとり	1985	木版・紙	7.8 × 16.0
清宮質文	なんじの革囊にわが涙を	1985	木版・紙	17.5 × 16.9
清宮質文	晩夏	1985	木版・紙	6.8 × 7.0
清宮質文	秋の午後	1985	木版・紙	16.8 × 27.7
清宮質文	冬の夕 (絶筆)	1991	ガラス絵	12.2 × 16.2
清宮質文	未完 (絶筆)	1991	ガラス絵	13.0 × 16.6
清宮質文	失題	1960年代	水彩・紙	14.8 × 11.8
清宮質文	歳月	1970	木版画	18.9 × 25.9
清宮質文	眠り	1966	木版・紙	19.8 × 27.8
清宮質文	夏の終わり	1967	木版・紙	10.2 × 22.2
清宮質文	月と運河 (試摺り)	1988	木版・紙	16.5 × 16.4
清宮質文	無題 (未完)	1991	木版・紙	23.0 × 30.6
駒井哲郎・小磯良平・清宮質文・浜田知明	駒井哲朗のオマージュ	1982	エッチング他	43.6 × 34.6

#### 4. 館蔵作品貸出状況

作者名	作品名 (*印は寄託作品)	貸出先	展覧会名	会場・会期
三輪途道	猿を待ってた日*	アーツ前橋	アーツ前橋開館記念展「カゼイ ロノハナ 未来への対話」	アーツ前橋 10.26-1.26

#### 5. 保存・修復

作者名	作品名	技法・材質	種別	処置内容
フランソワ・ボンボン	クロード・レイ	石膏	彫刻	固定用金属ナット再取り付け
フランソワ・ボンボン	ポール像	テラコッタ	彫刻	固定用金属ナット再取り付け
フランソワ・ボンボン	D氏像	石膏	彫刻	安定板の治具取り付け、金属板固定
フランソワ・ボンボン	シロクマ	合金	彫刻	蛍光X線による地金分析
高田博厚	裸婦像	ブロンズ	彫刻	底面の防錆、穿孔、ねじ切り、木製安定板作成・加工、取り付け

#### B 図書資料その他

平成25年度 収蔵図書

種類区分	一般図書	定期刊行物	カタログ	年報目録	研究報告	その他	計
購入	183	126	48	0	4	3	364
寄贈	64	75	321	63	110	3	636
計	247	201	369	63	114	6	1,000

## 関係者および職員名簿

(平成 26 年 1 月 1 日現在)

### 群馬県立館林美術館作品収集委員

氏名	職名
染谷滋	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館館長
水沢勉	神奈川県立近代美術館館長
横山勝彦	長野県信濃美術館・東山魁夷館副館長
古田亮	東京藝術大学大学美術館准教授

### 職員名簿

(平成 25 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日)

館長	佐々木正直
副館長	上島孝二

#### <教育普及係>

教育普及係長	高田晴夫
主幹(事)	早矢仕智陽
主幹(事)	小林かおる
主幹(事)	田口博文
主事(学芸員)	野澤広紀
教育普及員	齋藤久美子
	澁澤友香莉
	羽鳥あゆみ
	最上雅世
	荒川幸代 (～9 月 30 日)
	松本梨江 (10 月 1 日～)

#### <学芸係>

補佐(学芸係長)	中島幸子
主幹(学芸員)	谷内克聡
主幹(学芸員)	神尾玲子
主幹(学芸員)	松下和美
資料整理員	伊羅子典代